



研修プログラムガイド 2011



四国地区大学教職員能力開発ネットワーク



研修プログラムガイド2011の発刊にあたって

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（S P O D）」は、平成20年度文部科学省戦略的大学連携支援事業の採択を機に設立されました。このネットワークは、学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的力量をもった高等教育のプロフェッショナルを輩出することを目指しています。その取り組みの中核となるのが、全加盟校の教職協働によるF D／S Dプログラムの開発と実施です。

本ガイドブックは、S P O Dネットワーク内で開催され、かつ加盟校が参加可能な全81コマのF D／S Dプログラムを掲載するもので、平成21年度より毎年作成され、加盟校の全教職員約8,000名に配布されています。ここに掲載されているプログラムは、授業改善のためのスキルから、カリキュラム改善、組織改善に関するものまで多彩な内容であり、各加盟校の抱える実状や教職員のニーズに応じて受講できるものとなっています。本ガイドブックの発刊・配布によって、計画的なプログラム参加が促進され、毎年1,000名以上が受講するようになり、四国地区の教職員の能力開発に大きな効果をもたらしています。

S P O Dは、平成22年度をもって文部科学省による支援期間が終了しましたが、平成23年度以降も引き続き、ネットワークコア校を中心とする運営体制のもと、全加盟校が連携しながらこれまでの事業を継続していきます。S P O Dの取組は大学間連携の好例として全国的にも注目を集めていますが、その成果が真に問われるのは補助金事業が終了したこれからです。加盟校の皆様には、引き続きご協力・ご支援をいただき、S P O D事業の実施を通して四国地区の高等教育機関の教育力が向上することを期待しています。

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会長

愛媛大学長 柳 澤 康 信

研修プログラムガイド2011目次

SPODについて	4	ティーチング・ポートフォリオ入門	39
日程別プログラム一覧	10	ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ〈東四国対象〉	40
開催大学別プログラム一覧	12	ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ〈西四国対象〉	40
テーマ別プログラム一覧	14	高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	41
SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧 ..	16	ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ ..	42
研修プログラム		FD/SDプログラム（教職員対象）	43
FDプログラム（教員対象）	17	ルーブリックを作ろう！ー成績評価の厳密化と効率化のためにー ..	44
教育力開発基礎プログラム	18	学習動機を高める授業	44
新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」 ..	19	授業の双方向性を高めるクリッカー入門編 ..	45
授業デザインワークショップ	20	クリッカーで教育・研究が変わる！	45
学生の学びを支援する授業の準備（新任教員FDワークショップ） ..	21	教材のホームページ化について	46
講義法の基本	22	Webページ作成入門	46
講義法の基本	22	e-Learning事始め	47
講義法の基本	23	Adobe Premiere Elementsを使った動画教材作成法	47
様々な授業改善の技法	23	パワーポイント2010基本技・便利技	48
様々な授業改善の技法	24	心理学から見た教室デザイン	48
様々な授業改善の技法	24	メンタルヘルス研修	49
学習評価の基本	25	人権啓発研修	49
学習評価の基本	25	高等教育機関における安全衛生	50
学習評価の基本	26	FDer養成プログラム	
成績評価とフィードバックー評価の原則からルーブリック評価までー ..	26	（ファカルティ・ディベロッパー対象） ..	51
シラバスの書き方	27	FDファシリテーター（FD担当者）養成研修（東四国対象） ..	52
グラフィック・シラバスの作成方法	27	FDファシリテーター（FD担当者）養成研修（西四国対象） ..	53
学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方 ..	28	ファカルティ・ディベロッパー養成研修 ..	54
学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法 ..	28	SDプログラム（職員対象）	55
協同学習の技法（入門編）	29	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅠ） ..	56
グループ学習のコツ	29	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ） ..	58
効果的なグループワークの技法	30	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅢ） ..	59
学生の能動学習を引き出す仕組みTBL（チーム基盤学習） ..	30	学務系職員養成プログラム（レベルⅠ-1）	60
初年次科目のためのグループワークの技法 ..	31	学務系職員養成プログラム（レベルⅠ-2）	61
講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザインー考え方と進め方ー ..	31	次世代リーダー養成プログラム	62
能動学習支援者必須！グループワークのためのファシリテーション入門 ..	32	高等教育トップリーダーセミナー	64
効果的なグループワークの技法	32	大学職員のための企画力養成講座	65
クラスルームコントロール	33	大学職員のための企画力養成講座	65
「プレゼンテーションの方法」の教え方	33	大学職員のための企画力養成講座	66
大人数講義法の基本	34	SDプログラム開発手法	66
講義のための話し方入門	34	講師養成研修	67
「レポートの書き方」の教え方	35	ブレFDプログラム（大学院生対象）	69
「日本語技法」の教え方	35	教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ ..	70
「ノートの取り方」の教え方	36	総合プログラム	71
Eラーニング入門	36	大学教育カンファレンスin徳島	72
自習を助ける教材を創る・発信するためのPowerPoint & Moodle入門	37	愛媛大学教育改革シンポジウム	73
英語で授業を教えたい教員のためのワークショップ ..	37	SPODフォーラム2011	74
ちょっと気になる学生への対応とその理解	38	学内向け研修プログラム	75
ティーチング・ポートフォリオ入門	38	各種研修プログラムの	
ティーチング・ポートフォリオ入門	39	お申し込み・お問い合わせについて	81

研修プログラムガイド利用の手引き

〈検索方法について〉

本ガイドブックは、教職員の皆様に、様々なニーズから研修プログラムを探していただくために下記の3つの検索方法があります。

○日程別プログラム一覧 p.10 ～ 11

各研修プログラムを、日程順に掲載しています。日程から研修プログラムを検索したい場合に便利です。また、主催大学や内容（教員対象か職員対象かなど）についても同時掲載しておりますので、ご参照ください。

○開催大学別プログラム一覧 p.12 ～ 13

各研修プログラムを、開催大学別に掲載しています。開催大学から研修プログラムを検索したい場合に便利です。なお、遠隔配信の欄にマークが付いているプログラムは、システムが整備されている加盟校への遠隔配信を予定しているものです。遠隔配信の申し込み方法については、p.84 をご参照ください。

○テーマ別プログラム一覧 p.14 ～ 15

各研修プログラムを、テーマ別に掲載しています。内容から研修プログラムを検索したい場合に便利です。なお、開催場所についても同時掲載しておりますので、ご参照ください。

〈研修プログラムの表記について〉

**申し込みの際に
利用するプログラム番号です。**

**遠隔配信予定
プログラムです。**

プログラム番号 1-019

研究室運営方法のコツ—先輩が後輩を指導するシステムづくり—

遠隔 **FD/SD**

**プログラムの内容を
表しています。**

**開催地（もしくは主催大学）
を表しています。**

**プログラムに関連する
参考資料や写真を
掲載しています。**

**申し込み方法については、
84ページをご参照ください。**

対象者 研究室の運営に関わる教職員	*目標* 1. 研究室のルールを作ることができる。 2. 研究室内で先輩が後輩を指導するシステムを作ることができる。
対象校 SPOD加盟校	*内容* 1. 〈ワーク〉研究室運営に関する問題点の共有 2. 研究室教育をとりまく状況 (1) 中教審答申「新時代の大学院教育」 (2) なぜ研究室教育はうまく機能しなくなったのか 3. 研究室教育は必要なのか？ (1) 工学系卒業生への調査から (2) 愛媛大学大学院教育WG報告書 4. ケーススタディ 5. 研究室への参加を促す仕組み (1) 新しいメンバーがスムーズに研究室に入れるようにするには (2) ルール作りのコツ 6. 先輩が後輩の面倒を見るシステムづくり 7. 〈ワーク〉研究室のルール作成
目標 右記参照	
講師 城岡祥子、山内一祥、大竹奈津子（愛媛大学教育企画室）	
日時 9月17日(金)13:00～15:00	
場所 新キャンパス アクティブ・ラーニングスペース2	
受講定員 30名	
主催 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	
その他 開講日2週間前、先着順	
申込先・問合先 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp	

参考資料

4 ケーススタディ
～とある研究室の一年～

前編
・新学連ミーティング
・教員生懇談会
・中教審答申
・夏の大総会・院内パーティー
・研究旅行
・いも汁会
・卒業生会合・卒業旅行
・忘年会
・卒業生旅行会

後編
・卒業生のメンターを決定
・月1で研究室参加
・夕食やお茶は関係

〈注〉各研修プログラムの日時、講師等の詳細が未定の箇所につきましては、問い合わせ先にご確認ください。また、プログラムの詳しい内容が決まり次第、SPODホームページ（<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>）に掲載していきますので、ご参照ください。

SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)について

◇概要

四国地区大学教職員能力開発ネットワークは、FD／SD事業のネットワークであり、平成20年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートし、現在、四国地区にある33の全ての高等教育機関が加盟するネットワークへと成長しています。

四国地区大学教職員能力開発ネットワークは、「Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education」の頭文字をとって「SPOD」と呼ばれています。

◇目標

SPODの全加盟校が連携してネットワーク事業を展開し、FDとSDという2つの事業の効率化、高度化、実質化を行うことで、教育の質の保証を図り、学生の豊かな学びと成長を支援する、実践的な力量をもった高等教育のプロフェッショナルの輩出を目指しています。



◇運営体制

SPODは、安定した運営体制に特徴があります。徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学の4大学をネットワークコア校とし、FD／SD／事務担当者が月に1回程度集まり、ネットワークコア運営協議会を開催し、教職協働で事業の実施、運営上の諸課題を協議しています。このことが、ネットワークコア校間の教職員の関係を密にし、事業の推進力となっています。ネットワークコア校は、各県内加盟校のとりまとめや、県内加盟校会議を通じての情報提供のほか、各加盟校に対して、各種プログラムを提供し、プログラムに対する意見収集や、ニーズ把握調査の実施により、SPOD加盟校全体のニーズに対応できるよう日々プログラムの見直しを行っています。また、コア校のFD／SD担当者が直接、加盟校を訪問する研修講師派遣事業も行っています。

さらに、全加盟校へ本事業の情報を提供するため、ホームページ上への研修講師プロフィールの掲載や研修資料の提供、定期的なメールマガジンの配信を行っています。

SPODでは、取組をよりよいものに改善していくため、外部の有識者3名を含む5名で構成される事業評価委員会を設置しています。事業評価委員会では、毎年、SPODが作成した活動報告書をもとに、書面により事業評価を行っています。その評価結果をもとに、事業の改善や推進を行っています。

◇取組内容

(FD)

1. 全学的なFDの実践的指導者であるFDer（ファカルティ・ディベロッパー）を養成するための体系的プログラムの開発、実施
2. 教員としてのキャリアパスの早い段階において、基礎的な内容を学習できるように新任教員、大学院生、ポスドク向け標準的FD・ブレFDプログラムの開発、実施
※特に、新任教員を対象とする研修の標準化を目指し取組に力を入れています。
3. 各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発、実施
4. 教員の教育業績記録を可視化するためのティーチング・ポートフォリオの開発
※1～3の取組を進めるにあたり、国立教育政策研究所高等教育研究部での研究成果を積極的に活用し、SPOD内のみならず、日本全国のモデルになるようプログラム開発を推進しています。また4は、大学評価・学位授与機構と連携しながら取組を推進しています。

(SD)

1. 階層別、専門分野別のSDプログラムの開発、実施
 - a) 経営者、管理者養成プログラムの開発、実施
 - b) 専門職養成プログラムの開発、実施
 - c) 次世代リーダー養成プログラムの開発、実施
2. 職員の職歴や業績を可視化するためのスタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）の開発
3. 1と2の取組を実質化するための職員キャリアアップサポートの実施
具体的には、開発したスタッフ・ポートフォリオを活用しながら、キャリアアップ支援の実施や、国公私を通じた職員人事交流などを実施していきます。

(SPODフォーラム) ※p.74参照

SPODが、大学・高専の教職員自らの能力開発のために、多種多様で質の高いFD／SDプログラムを集中的に実施し、組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場として毎年夏期4日間わたり提供しているイベントで、本事業の目玉企画です。

SPOD-FDについて

【SPOD-FDの定義】

SPODにおけるFDは、教育・学習効果を最大限に高めることを目指した、

(1)授業改善、(2)カリキュラム改善、(3)組織整備・改革 への組織的な取組の総称です。

(1) 授業改善 (Instructional Development)

個々の授業をより良いものにするための取組みです。具体的には、授業評価アンケート、教員相互の授業参観、授業コンサルテーション、教授法に関する講演会、シンポジウム、ワークショップ、セミナーなどがこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

・新任教員研修 ・各種スキルアップ系研修 ・各種公開セミナー

〈各大学での取組例〉

・教員相互の授業参観、授業講評会 ・学生による授業評価アンケート
・各種セミナー ・学生との意見交換会

(2) カリキュラム改善 (Curriculum Development)

学部、学科、課程、コース等において提供されるカリキュラムや教育プログラムをより良いものにするための取組みです。具体的には、カリキュラム・ポリシーの制定、授業科目の新設・改廃、授業科目間の関連性の検討、カリキュラムの現状診断・評価・開発、またこれらに関わるセミナーなどがこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

・ファカルティ・ディベロッパー*養成研修、FDファシリテーター養成研修
・カリキュラム改善に関するセミナー

〈各大学での取組例〉

・カリキュラム・ポリシー制定に関する学内FD研修会
・カリキュラム・ポリシーに対応した各授業科目の授業内容の検討
・カリキュラム・マップの作成 ・副専攻制導入の検討

(3) 組織の整備・改革 (Organizational Development)

教育・学生支援に関わる組織の構造や組織間の関係をより機能的なものにするための取組みです。具体的には、教育・学生支援に関わる委員会の設置・改廃、各委員会の役割の検討、組織の現状診断・評価・再編、組織間での連携協力、管理職等を対象とした各種研修会がこれにあたります。

〈SPODでの取組例〉

・ファカルティ・ディベロッパー*養成研修、FDファシリテーター養成研修

〈各大学での取組例〉

・SPODに関するFD実施体制の構築
・FD委員会等組織の見直し
・学科・コースの再編及びそれに伴う教員の再配置
・教育重点型教員の配置

(1)、(2)においては、組織レベルのみならず教員個人レベルにおける取組も重要です。そして、(1)、(2)、(3)いずれにおいても、常にPDCAサイクルを意識して、持続的に改善を図る姿勢が肝要であると考えます。

* ファカルティー・ディベロッパー (FDer) とは、FD の責任者として、各種研修プログラムの企画・実施や各教員への教育技術の支援を行う専門家です。教育技術のみならず、カリキュラムの改善や組織整備等も担います。高等教育センター等に所属しますが、学部にも所属している教員が、兼任でその役割を担うことも多くあります。

【SPOD – FD プログラムのレベルについて】

国立教育政策研究所が開発した FD マップを利用して、本ガイドブックに掲載されている SPOD – FD プログラムのレベル分類をおこなっています。FD マップとは、FD プログラムを体系的に整理できる枠組です(図参照)。FD マップでは、横軸に FD プログラムを実施する対象を示し、「ミクロ・レベル (授業・教授法の開発)」「ミドル・レベル (カリキュラム・プログラム開発)」「マクロ・レベル (組織の教育環境・教育制度の開発)」に分類しています。そして縦軸に FD を実施する対象者の能力開発の段階を示し、「Ⅰ. 導入 (気づく・わかる)」「Ⅱ. 基本 (実践できる)」「Ⅲ. 応用 (開発・報告できる)」「Ⅳ. 支援 (教えられる)」と4つのフェーズに分かれています。

本ガイドブック「テーマ別索引」(p.14)に、各プログラムのレベルとフェーズを提示しておりますのでご参照ください。

レベル フェーズ	ミクロ 個々の教員 授業・教授法	ミドル 教務委員 カリキュラム・ プログラム	マクロ 管理者 組織の教育環境・ 教育制度
Ⅰ. 導入 (気づく・わかる)			
Ⅱ. 基本 (実践できる)			
Ⅲ. 応用 (開発・報告できる)			
Ⅳ. 支援 (教えられる)			

図. FDマップのフレームワーク

参考・引用文献

国立教育政策研究所 FDer研究会『大学・短大でFDに携わる人のためのFDマップと利用ガイドライン』国立教育政策研究所, 2009

(1) SPOD-SDの定義

SPOD-SDとは、地域の「知の拠点」である四国内の大学等の職員が組織的に共同開発した職員養成プログラムにより、『大学、短期大学、高等専門学校ジェネラリストとしての広汎な素養に加え、スペシャリストとして特定の分野における能力開発を行うことにより、高等教育のプロフェッショナルを育成する』取組を指す。このSPOD-SDにおける職員養成プログラムをSPOD-SDプログラムという。

学士課程答申では、大学職員の職能開発について現状と課題を整理し、改善に向けた方策を示しています。SPOD-SDにおいては、この現状と課題を踏まえ、大学等の職員として一般的に求められる大学人・社会人基礎力及び大学等における複数の業務領域での知見（総務、財務、人事、企画、教務、研究、社会連携、生涯学習など）を持ち、大学等における問題に関する知識・理解などを備えたジェネラリストの育成に加え、教育方法の改革の実践を支える人材、経営を支援する人材、国際交流を支援する人材及び地域連携を支援する人材など、特定の分野において、より高度な専門性を備えたスペシャリストの育成を目指しています。

また、SPOD-SDでは、大学等の職員に必要な資質とは、ジェネラリスト的な要素とスペシャリスト的な要素を統合したハイブリッドな要素を備えることであり、これが、高等教育のプロフェッショナルの養成につながると考えております。このため、SPOD-SDの定義を「大学等のジェネラリストとしての広汎な素養に加え、スペシャリストとして特定の分野における能力開発を行うことにより、高等教育のプロフェッショナルを育成する」こととしました。

(2) SPOD-SDプログラムの開発

高等教育機関の職員は、大学人として社会人基礎力を持ち、高等教育を取り巻く環境や職員の果たすべき役割を的確に把握し、企画立案等に積極的に参画できる資質が求められています。このためSPOD-SDプログラムでは、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を可視化し、職場外研修（OFF-JT）及び職場内研修（OJT）を「意図的・計画的・持続的」に実施することにより、職員の能力開発の実質化を図ります。

なお、SPOD-SDプログラム等の開発・実施は、全加盟校による協働を目指しています。各県のコア校が中心となり、1) 職員がSDプログラム開発手法を学び、2) その上で、具体的なSDプログラムを開発し、3) 開発されたSDプログラムを実施し、4) 実施したSDプログラムの評価・改善を行います。

(3) SPOD-SDプログラムの構成

SPOD-SDプログラムは次の3つの柱で構成されています。

1) SPOD-SD大学（OFF-JT）

SPODにおける職員養成プログラムは、その養成プログラム全体を大学における課程の履修と想定しています。そのカリキュラムは共通教育、専門教育及び大学院における履修方式をとることとし、その課程認定については、認定必要単位を設定しています。

具体的には、SPOD-SD大学としてSDプログラムの単位認定制度を図のように構想しています。専門職養成課程として共通教育と専門教育の各プログラムを構築し、リーダー養成課程として次世代リーダー養成プログラム及び管理者・経営者養成プログラムを構築しました。

1. 専門職養成課程

大学職員の専門性を育成するSDプログラムを学士、修士、博士課程として位置づける。そのため、各専門領域を学部や研究科として位置づける。

	専門教育 (専門職養成プログラム)	共通教育 (基礎力養成プログラム)
学士課程 レベル 1 専門〇〇単位 共通〇〇単位 修士課程(専門) レベル 2 専門〇〇単位 共通〇〇単位 博士課程(専門) レベル 3 専門〇〇単位 共通〇〇単位	学務学部(研究科) 研究協力学部(研究科) 総務学部(研究科) 財務学部(研究科) 施設学部(研究科) 図書学部(研究科) 国際交流学部(研究科) 情報処理学部(研究科) 医事学部(研究科) . . .	大学人・社会人としての基礎力を養成するための共通研修科目

2. リーダー養成課程

大学のミドルリーダー、トップリーダーに必要な知識・技術・姿勢を育成するSDプログラムを修士、博士課程として位置づける。なお、修士課程(リーダー)を受講する際は、修士課程(専門)以上のプログラムを受講中または修了していることを原則とする。

修士課程(リーダー) 〇〇単位	次世代リーダー養成プログラム
博士課程(リーダー) 〇〇単位	経営者・管理者養成プログラム(高等教育トップリーダーセミナー)

図. SPOD - SD 大学構想図

さらに、SPOD-SDプログラムにより知識・能力を身につけた職員自らが、次のSPOD-SDプログラムの講師となり、次世代の職員を育成していくというサイクルを確立することで、SPOD-SDの取り組みを継続的に実施していくことが可能となります。

2) スタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）の作成（OJT）

職員個々人のキャリア形成に向けて、スタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）を作成します。これにより、大学等職員としての自己認識と方向性を明確にします。スタッフ・ポートフォリオの導入に当たっては、職員のキャリア・アップの参考となるものとします。

3) 職員キャリア・アップ・サポート制度（OJT）

キャリア・アップ・サポートとして、スタッフ・ポートフォリオに掲げる職員としてのビジョン及びゴールの目標設定や目標達成に向けて、上司が部下に対して相談、助言等を行うメンター制度を導入します。これにより、大学等の組織と職員個人の方向性を近づけることが可能となります。さらに、キャリア・アップを目指す職員が他大学への人事交流を希望する場合等のSPOD加盟校間における連絡・調整など、人事交流を円滑に推進するなどのサポートも実施します。

SPOD-SDプログラムは、国内の大学等における本格的な職員養成プログラムとなることを目指しています。このため、四国内における大学等の協働だけでなく、国内の各関係機関や学会等とも連携し、教員と職員が協働して開発することが肝要であると考えます。

日程別プログラム一覧

日 程	プログラム名	開催大学	内容	ページ
5月				
5月16日(月)	クリッカーで教育・研究が変わる！	香川大学	FD/SD	p.45
5月下旬	メンタルヘルス研修	愛媛大学	FD/SD	p.49
6月				
6月9日(木)～11日(土)	次世代リーダー養成プログラム(第1回)	香川大学	SD	p.62
6月25日(土)	ティーチング・ポートフォリオ入門	香川短期大学	FD	p.39
6月25日(土)～26日(日)	FDファシリテーター(FD担当者)養成研修〈東四国対象〉	徳島大学	FDer	p.52
6月上旬	講師養成研修	愛媛大学	SD	p.67
7月				
7月9日(土)～10日(日)	授業デザインワークショップ(第16回)	愛媛大学	FD	p.20
7月22日(金)	大学職員のための企画力養成講座	高知工科大学	SD	p.65
7月30日(土)	講義法の基本	高松大学・高松短期大学	FD	p.22
7月後半	ティーチング・ポートフォリオ入門	徳島工業短期大学	FD	p.39
7月中旬	学務系職員養成プログラム(レベルⅠ～Ⅱ)	愛媛大学	SD	p.60
7月中	大学人、社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ)	愛媛大学	SD	p.59
8月				
8月4日(木)	教材のホームページ化について－どうすればドキュメントをHP化できるか－	香川大学	FD/SD	p.46
8月4日(木)～6日(土)	次世代リーダー養成プログラム(第2回)	愛媛大学・聖カタリナ大学	SD	p.62
8月19日(金)～20日(土)	教育力開発基礎プログラム	徳島大学	FD	p.18
8月23日～26日	SPODフォーラム2011	愛媛大学	FD/SD	p.74
8月23日(火)	グラフィック・シラバスの作成方法	愛媛大学	FD	p.27
8月23日(火)	学習評価の基本	愛媛大学	FD	p.25
8月23日(火)	e-Learning事始め－コンテンツ作成からLMS利用の第一歩－	香川大学	FD/SD	p.47
8月26日(金)	大人数講義法の基本	愛媛大学	FD	p.34
8月26日(金)	授業の双方向性を高めるクリッカー入門編	愛媛大学	FD/SD	p.45
8月30日(火)	英語で授業を教えたい教員のためのワークショップ	愛媛大学	FD	p.37
8月30日(火)	Adobe Premiere Elementsを使った動画教材作成法	愛媛大学	FD/SD	p.47
8月30日(火)	大学職員のための企画力養成講座	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	SD	p.66
8月30日(火)	講義法の基本	高知学園短期大学	FD	p.23
8月31日(水)～9月1日(木)	授業デザインワークショップ(第17回)	愛媛大学	FD	p.20
9月				
9月1日(木)～9月2日(金)	学生の学びを支援する授業の準備(新任教員FDワークショップ)	高知大学	FD	p.21
9月2日(金)	パワーポイント2010基本技・便利技	愛媛大学	FD/SD	p.48
9月2日(金)	Eラーニング入門	愛媛大学	FD	p.36
9月6日(火)	学習動機を高める授業	愛媛大学	FD/SD	p.44
9月7日(水)	ちょっと気になる学生への対応とその理解	香川大学	FD	p.38
9月9日(金)	講義のための話し方入門	愛媛大学	FD	p.34
9月9日(金)	ルーブリックを作ろう！－成績評価の厳密化と効率化のために－	愛媛大学	FD/SD	p.44
9月9日(金)	大学職員のための企画力養成講座	高知大学	SD	p.65
9月13日(火)	グループ学習のコツ	愛媛大学	FD	p.29
9月13日(火)	心理学から見た教室デザイン－学びを促す学習空間づくり－	愛媛大学	FD/SD	p.48
9月13日(火)	効果的なグループワークの技法－進捗を落とさずチーム学習(チーム基盤学習:TBL)で教育効果UP！－	愛媛大学	FD	p.30
9月14日(水)	学生の能動学習を引き出す仕組みTBL(チーム基盤学習)	高知大学	FD*	p.30
9月15日(木)	Webページ作成入門	高知大学	FD*/SD	p.46
9月16日(金)	成績評価とフィードバック－評価の原則からルーブリック評価まで－	高知大学	FD	p.26
9月16日(金)	ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	愛媛大学	FD	p.42
9月16日(金)	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方	高知大学	FD*	p.28

9月17日(土)～18日(日)	教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ	愛媛大学	プレFD	p.70
9月20日(火)	様々な授業改善の技法	今治明德短期大学	FD	p.24
9月20日(火)	クラスルームコントロール <FD・SDスキルアップ講座>	愛媛大学	FD	p.33
9月27日(火)	効果的なグループワークの技法	高知工業高等専門学校	FD	p.32
9月中旬	新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	香川大学	FD	p.19
9月中旬	SDプログラム開発手法	四国大学・四国大学短期大学部	SD	p.66
9月中	ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ〈西四国対象〉	愛媛大学	FD	p.40
9月中	高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	FD	p.41
9月中	高等教育機関における安全衛生	愛媛大学	FD/SD	p.50
9月中	大学人、社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ）	愛媛大学	SD	p.58
10月				
10月8日(土)～9日(日)	FDファシリテーター（FD担当者）養成研修〈西四国対象〉	愛媛大学	FDer	p.53
10月中	大学人、社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅠ）	愛媛大学	SD	p.56
11月				
11月11日(金)	学習評価の基本	香川大学	FD	p.25
11月11日(金)～13日(日)	ファカルティ・ディベロッパー養成研修	愛媛大学	FDer	p.54
11月24日(木)～26日(土)	次世代リーダー養成プログラム（第3回）	徳島大学	SD	p.62
11月中旬	学務系職員養成プログラム（レベルⅠ～Ⅱ）	徳島大学	SD	p.61
12月				
12月上旬	ティーチング・ポートフォリオ入門	徳島大学	FD	p.38
12月中旬	人権啓発研修	愛媛大学	FD/SD	p.49
12月下旬	高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	阿南工業高等専門学校	FD	p.41
12月中	シラバスの書き方	香川大学	FD	p.27
12月中	学習評価の基本	阿南工業高等専門学校	FD	p.26
12月～3月	ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ〈東四国対象〉	徳島大学	FD	p.40
1月				
1月19日(木)～21日(土)	次世代リーダー養成プログラム（第4回）	高知大学	SD	p.62
1月中旬	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	愛媛大学	FD	p.28
1月～3月	大学教育カンファレンス in 徳島	徳島大学	FD*/SD	p.72
1月～3月	愛媛大学教育改革シンポジウム	愛媛大学	FD*/SD	p.73
3月				
3月6日(火)	「プレゼンテーションの方法」の教え方	香川大学	FD	p.33
3月6日(火)	「レポートの書き方」の教え方	香川大学	FD	p.35
3月8日(木)	「日本語技法」の教え方	香川大学	FD	p.35
3月9日(金)	協同学習の技法（入門編）	香川大学	FD	p.29
3月9日(金)	「ノートの取り方」の教え方	香川大学	FD	p.36
3月12日(月)	自習を助ける教材を創る・発信するためのPowerPoint & Moodle入門	高知大学	FD*	p.37
3月13日(火)	初年次科目のためのグループワークの技法	高知大学	FD	p.31
3月14日(水)	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～	高知大学	FD	p.31
3月26日(月)～3月27日(火)	能動学習支援者必須！グループワークのためのファシリテーション入門	高知大学	FD*	p.32
3月下旬	高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	阿南工業高等専門学校	FD	p.41
その他・未定				
未定	講義法の基本	香川県立保健医療大学	FD	p.22
未定	様々な授業改善の技法	高知県立大学・高知短期大学	FD	p.24
未定	高等教育トップリーダーセミナー	愛媛大学	SD	p.64
未定	様々な授業改善の技法	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	FD	p.23

内容についての説明

FD …… 教員対象

FD* …… 教員対象（学生・院生も参加可能）

FD/SD … 教職員対象

SD …… 職員対象

FDer …… ファカルティ・ディベロッパー対象

プレFD … 大学院生対象

開催大学別プログラム一覧

大学名	プログラム名	日程	遠隔配信	プログラムNo.	ページ
徳島大学	教育力開発基礎プログラム	8月19日(金)~20日(土)		T-001	p.18
徳島大学	ティーチング・ポートフォリオ入門	12月上旬		T-002	p.38
徳島大学	ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ〈東四国対象〉	12月~3月		T-003	p.40
徳島大学	FDファシリテーター(FD担当者)養成講座〈東四国対象〉	6月25日(土)~26日(日)		T-004	p.52
徳島大学	学務系職員養成プログラム(レベルI-2)	11月中旬		T-005	p.61
徳島大学	次世代リーダー養成プログラム(第3回)	11月24日(木)~26日(土)		T-006	p.62
徳島大学	大学教育カンファレンス in 徳島	1月~3月		T-007	p.72
四国大学・四国大学短期大学部	SDプログラム開発手法	9月中旬		T-008	p.66
徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	様々な授業改善の技法	未定		T-009	p.23
徳島工業短期大学	ティーチング・ポートフォリオ入門	7月後半		T-010	p.39
阿南工業高等専門学校	学習評価の基本	12月中		T-011	p.26
阿南工業高等専門学校	高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	12月下旬		T-012	p.41
阿南工業高等専門学校	高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	3月下旬		T-013	p.41
香川大学	新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	9月中旬		K-001	p.19
香川大学	学習評価の基本	11月11日(金)		K-002	p.25
香川大学	シラバスの書き方	12月中		K-003	p.27
香川大学	協同学習の技法(入門編)	3月9日(金)		K-004	p.29
香川大学	「プレゼンテーションの方法」の教え方	3月6日(火)		K-005	p.33
香川大学	「レポートの書き方」の教え方	3月6日(火)		K-006	p.35
香川大学	「日本語技法」の教え方	3月8日(木)		K-007	p.35
香川大学	「ノートの取り方」の教え方	3月9日(金)		K-008	p.36
香川大学	ちょっと気になる学生への対応とその理解	9月7日(水)		K-009	p.38
香川大学	クリッカーで教育・研究が変わる!	5月16日(月)		K-010	p.45
香川大学	教材のホームページ化について~どうすればドキュメントをHP化できるか~	8月4日(木)		K-011	p.46
香川大学	e-Learning事始め ~コンテンツ作成からLMS利用の第一歩~	8月23日(火)		K-012	p.47
香川大学	次世代リーダー養成プログラム(第1回)	6月9日(木)~11日(土)		K-013	p.62
香川県立保健医療大学	講義法の基本	未定		K-014	p.22
高松大学・高松短期大学	講義法の基本	7月30日(土)		K-015	p.22
香川短期大学	ティーチング・ポートフォリオ入門	6月25日(土)		K-016	p.39
愛媛大学	授業デザインワークショップ(第16回)	7月9日(土)~10日(日)		I-001	p.20
愛媛大学	授業デザインワークショップ(第17回)	8月31日(水)~9月1日(木)		I-002	p.20
愛媛大学	学習評価の基本 <FD・SDスキルアップ講座>	8月23日(火)	遠隔	I-003	p.25
愛媛大学	グラフィック・シラバスの作成方法 <FD・SDスキルアップ講座>	8月23日(火)	遠隔	I-004	p.27
愛媛大学	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	1月中旬	遠隔	I-005	p.28
愛媛大学	グループ学習のコツ <FD・SDスキルアップ講座>	9月13日(火)		I-006	p.29
愛媛大学	効果的なグループワークの技法~進捗を落とさずチーム学習(チーム基盤学習:TBL)で教育効果UP!~ <FD・SDスキルアップ講座>	9月22日(木)		I-007	p.30
愛媛大学	クラスルームコントロール <FD・SDスキルアップ講座>	9月20日(火)		I-008	p.33
愛媛大学	大人数講義法の基本 <FD・SDスキルアップ講座>	8月26日(金)		I-009	p.34
愛媛大学	講義のための話し方入門 <FD・SDスキルアップ講座>	9月9日(金)	遠隔	I-010	p.34

愛媛大学	Eラーニング入門 <FD・SDスキルアップ講座>	9月2日(金)		I-011	p.36
愛媛大学	英語で授業を教えたい教員のためのワークショップ<FD・SDスキルアップ講座>	8月30日(火)		I-012	p.37
愛媛大学	ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ<西四国対象>	9月中		I-013	p.40
愛媛大学	高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	9月中		I-014	p.41
愛媛大学	ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ	9月16日(金)		I-015	p.42
愛媛大学	ループリッくを作ろう！ー成績評価の厳密化と効率化のためにー<FD・SDスキルアップ講座>	9月9日(金)		I-016	p.44
愛媛大学	学習動機を高める授業 <FD・SDスキルアップ講座>	9月6日(火)		I-017	p.44
愛媛大学	授業の双方向性を高めるクリッカー入門編<FD・SDスキルアップ講座>	8月26日(金)		I-018	p.45
愛媛大学	Adobe Premiere Elementsを使った動画教材作成法 <FD・SDスキルアップ講座>	8月30日(火)		I-019	p.47
愛媛大学	パワーポイント2010基本技・便利技<FD・SDスキルアップ講座>	9月2日(金)		I-020	p.48
愛媛大学	心理学から見た教室デザイン～学びを促す学習空間づくり～<FD・SDスキルアップ講座>	9月13日(火)		I-021	p.48
愛媛大学	メンタルヘルス研修	5月下旬		I-022	p.49
愛媛大学	人権啓発研修	12月中旬		I-023	p.49
愛媛大学	高等教育機関における安全衛生	9月中旬		I-024	p.50
愛媛大学	FDファシリテーター(FD担当者)養成研修<西四国対象>	10月8日(土)～9日(日)		I-025	p.53
愛媛大学	ファカルティ・ディベロッパー養成研修	11月11日(金)～13日(日)		I-026	p.54
愛媛大学	高等教育トップリーダーセミナー	未定		I-027	p.64
愛媛大学	大学人、社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)	10月中		I-028	p.56
愛媛大学	大学人、社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅡ)	9月中		I-029	p.58
愛媛大学	大学人、社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ)	7月中		I-030	p.59
愛媛大学	学務系職員養成プログラム(レベルⅠ-Ⅰ)	7月中旬		I-031	p.60
愛媛大学	講師養成研修	6月上旬		I-032	p.67
愛媛大学	教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ	9月17日(土)～18日(日)		I-033	p.70
愛媛大学	愛媛大学教育改革シンポジウム	1月～3月		I-034	p.73
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	次世代リーダー養成プログラム(第2回)	8月4日(木)～6日(土)		I-035	p.62
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	大学職員のための企画力養成講座	8月30日(火)		I-036	p.66
今治明德短期大学	様々な授業改善の技法	9月20日(火)		I-037	p.24
高知大学	学生の学びを支援する授業の準備(新任教員FDワークショップ)	9月1日(木)～9月2日(金)		Y-001	p.21
高知大学	成績評価とフィードバックー評価の原則からループリッく評価までー<秋季FDセミナー>	9月16日(金)		Y-002	p.26
高知大学	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方 <秋季FDセミナー>	9月16日(金)		Y-003	p.28
高知大学	学生の能動学習を引き出す仕組みTBL(チーム基盤学習)<秋季FDセミナー>	9月14日(水)		Y-004	p.30
高知大学	初年次科目のためのグループワークの技法 <春季FDセミナー>	3月13日(火)		Y-005	p.31
高知大学	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～<春季FDセミナー>	3月14日(水)		Y-006	p.31
高知大学	能動学習支援者必須！グループワークのためのファシリテーション入門 <春季FDセミナー>	3月26日(月)～3月27日(火)		Y-007	p.32
高知大学	自習を助ける教材を創る・発信するためのPowerPoint & Moodle入門 <春季FDセミナー>	3月12日(月)		Y-008	p.37
高知大学	Webページ作成入門 <秋季FDセミナー>	9月15日(木)		Y-009	p.46
高知大学	次世代リーダー養成プログラム(第4回)	1月19日(木)～21日(土)		Y-010	p.62
高知大学	大学職員のための企画力養成講座	9月9日(金)		Y-011	p.65
高知県立大学・高知短期大学	様々な授業改善の技法	未定		Y-012	p.24
高知工科大学	大学職員のための企画力養成講座	7月22日(金)		Y-013	p.65
高知学園短期大学	講義法の基本	8月30日(木)		Y-014	p.23
高知工業高等専門学校	効果的なグループワークの技法	9月27日(火)		Y-015	p.32

テーマ別プログラム一覧

プログラム名〈FDプログラム〉	レベル・フェーズ			開催場所	ページ
	ミクロ	ミドル	マクロ		
授 業 の 基 本					
教育力開発基礎プログラム	I II			徳島大学	p.18
新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	I II			香川大学	p.19
授業デザインワークショップ（第16回）	I II			愛媛大学	p.20
授業デザインワークショップ（第17回）	I II			愛媛大学	p.20
学生の学びを支援する授業の準備（新任教員FDワークショップ）	I II			高知大学	p.21
講義法の基本	I II			香川県立保健医療大学	p.22
講義法の基本	I II			高松大学・高松短期大学	p.22
講義法の基本	I II			高知学園短期大学	p.23
様々な授業改善の技法	I II			徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	p.23
様々な授業改善の技法	I II			今治明徳短期大学	p.24
様々な授業改善の技法	I II			高知県立大学・高知短期大学	p.24
学習評価の基本	I II			香川大学	p.25
学習評価の基本	I II			愛媛大学	p.25
学習評価の基本	I II			阿南工業高等専門学校	p.26
成績評価とフィードバックー評価の原則からルーブリック評価までー	I II			高知大学	p.26
ルーブリックを作ろう！ー成績評価の厳密化と効率化のためにー	I II			愛媛大学	p.44
シラバスの書き方	I II			香川大学	p.27
グラフィック・シラバスの作成方法	I II			愛媛大学	p.27
学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方	I II			高知大学	p.28
学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	I II			愛媛大学	p.28
協同学習の技法（入門編）	I II			香川大学	p.29
グループ学習のコツ	I II			愛媛大学	p.29
「プレゼンテーションの方法」の教え方	I II			香川大学	p.33
大人数講義法の基本	I II			愛媛大学	p.34
講義のための話し方入門	I II			愛媛大学	p.34
「レポートの書き方」の教え方	I II			香川大学	p.35
「日本語技法」の教え方	I II			香川大学	p.35
「ノートの取り方」の教え方	I II			香川大学	p.36
クラスルームコントロール	I II			愛媛大学	p.33
学習動機を高める授業	I II			愛媛大学	p.44
参 加 型 学 習					
効果的なグループワークの技法ー進度を落とさずチーム学習（チーム基盤学習：TBL）で教育効果UP↑ー	I II			愛媛大学	p.30
学生の能動学習を引き出す仕組みTBL（チーム基盤学習）	I II			高知大学	p.30
初年次科目のためのグループワークの技法	I II			高知大学	p.31
講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザインー考え方と進め方ー	I II			高知大学	p.31
能動学習支援者必須！グループワークのためのファシリテーション入門	I II			高知大学	p.32
効果的なグループワークの技法	I II			高知工業高等専門学校	p.32
I C T					
Eラーニング入門	I II			愛媛大学	p.36
自習を助ける教材を創る・発信するためのPowerPoint & Moodle入門	I II			高知大学	p.37
授業の双方向性を高めるクリッカー入門編	I II			愛媛大学	p.45
クリッカーで教育・研究が変わる！	I II			香川大学	p.45
教材のホームページ化についてーどうすればドキュメントをHP化できるかー	I II			香川大学	p.46
Webページ作成入門	I II			高知大学	p.46
e-Learning事始めーコンテンツ作成からLMS利用の第一歩ー	I II			香川大学	p.47

Adobe Premiere Elementsを使った動画教材作成法	I II			愛媛大学	p.47
パワーポイント2010基本技・便利技	I II			愛媛大学	p.48
多様な学生への支援					
英語で授業を教えたい教員のためのワークショップ	I II			愛媛大学	p.37
ちょっと気になる学生への対応とその理解	I II			香川大学	p.38
学 習 環 境					
心理学から見た教室デザインー学びを促す学習空間づくりー	I II			愛媛大学	p.48
ファカルティ・ディベロップメント					
FDファシリテーター（FD担当者）養成研修〈東四国対象〉		I II III IV		徳島大学	p.52
FDファシリテーター（FD担当者）養成研修〈西四国対象〉		I II III IV		愛媛大学	p.53
ファカルティ・ディベロッパー養成研修			I II III IV	愛媛大学	p.54
総合プログラム					
大学教育カンファレンス in 徳島	I II III IV	I II III IV	I II	徳島大学	p.72
愛媛大学教育改革シンポジウム	I II III IV	I II III IV	I II	愛媛大学	p.73
SPODフォーラム2011	I II III IV	I II III IV	I II	愛媛大学	p.74
プ レ F D					
教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ	I II			愛媛大学	p.70
ティーチング・ポートフォリオ					
ティーチング・ポートフォリオ入門				徳島大学	p.38
ティーチング・ポートフォリオ入門				徳島工業短期大学	p.39
ティーチング・ポートフォリオ入門				香川短期大学	p.39
ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ〈東四国対象〉				徳島大学	p.40
ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ〈西四国対象〉				愛媛大学	p.40
ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ				愛媛大学	p.42
高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ				愛媛大学	p.41
高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ				阿南工業高等専門学校	p.41

プログラム名〈SDプログラム〉	開催場所	ページ
職場における多様性と健康		
メンタルヘルス研修	愛媛大学	p.49
人権啓発研修	愛媛大学	p.49
高等教育機関における安全衛生	愛媛大学	p.50
ビジネススキル		
大学人、社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅠ）	愛媛大学	p.56
大学人、社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ）	愛媛大学	p.58
大学人、社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅢ）	愛媛大学	p.59
学務系職員養成プログラム（レベルⅠ－Ⅰ）	愛媛大学	p.60
学務系職員養成プログラム（レベルⅠ－Ⅱ）	徳島大学	p.61
大学職員のための企画力養成講座	高知大学	p.65
大学職員のための企画力養成講座	高知工科大学	p.65
大学職員のための企画力養成講座	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	p.66
リーダーシップ・組織開発		
次世代リーダー養成プログラム	香川大学	p.62
	愛媛大学・聖カタリナ大学	p.62
	徳島大学	p.62
	高知大学	p.62
高等教育トップリーダーセミナー	愛媛大学	p.64
SDプログラム開発手法	四国大学・四国大学短期大学部	p.66
講師養成研修	愛媛大学	p.67

SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧

大 学 等 名	プログラム名	対象校	区分	ページ
徳島				
徳島大学	ティーチング・ポートフォリオ入門	SPOD 全加盟校	FD	p.38
四国大学・四国大学短期大学部	S Dプログラム開発手法	SPOD 全加盟校	SD	p.66
徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	様々な授業改善の技法	SPOD加盟校 (徳島県内のみ)	FD	p.23
徳島工業短期大学	ティーチング・ポートフォリオ入門	SPOD 全加盟校	FD	p.39
阿南工業高等専門学校	学習評価の基本	SPOD加盟校 (高専のみ)	FD	p.26
香川				
香川大学	シラバスの書き方	SPOD 全加盟校	FD	p.27
香川県立保健医療大学	講義法の基本	SPOD 全加盟校	FD	p.22
高松大学・高松短期大学	講義法の基本	SPOD 全加盟校	FD	p.22
香川短期大学	ティーチング・ポートフォリオ入門	SPOD 全加盟校	FD	p.39
香川高等専門学校	ティーチング・ポートフォリオ入門	学内向け	FD	p.80
愛媛				
愛媛大学	効果的なグループワークの技法	SPOD 全加盟校	FD	p.30
愛媛県立医療技術大学	様々な授業改善の技法	学内向け	FD	
聖カトリナ大学・聖カトリナ大学短期大学部	大学職員のための企画力養成講座	SPOD 全加盟校	SD	p.66
松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	大学職員のための企画力養成講座	学内向け	SD	p.79
今治明德短期大学	様々な授業改善の技法	SPOD 全加盟校	FD	p.24
新居浜工業高等専門学校	講義法の基本	学内向け	FD	p.80
弓削商船高等専門学校	F Dの意義と実践事例	学内向け	FD	p.80
高知				
高知大学	大学職員のための企画力養成講座	SPOD 全加盟校	SD	p.65
高知県立大学・高知短期大学	様々な授業改善の技法	SPOD 全加盟校	FD	p.24
高知工科大学	大学職員のための企画力養成講座	SPOD 全加盟校	SD	p.65
高知学園短期大学	講義法の基本	SPOD 全加盟校	FD	p.23
高知工業高等専門学校	効果的なグループワークの技法	SPOD 全加盟校	FD	p.32

[本件に関するお問い合わせ先]

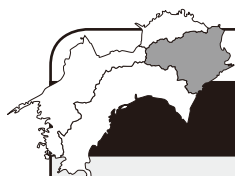
SPOD事務局（愛媛大学教育企画課）

TEL : 089-927-9154 E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp



FDプログラム

(教員対象)



プログラム番号 T-001

教育力開発基礎プログラム

FD

*主な対象

教員（講師または准教授昇任後2年以内）

*対象校

SPOD加盟校（東四国・香川県、徳島県内）

*目標

1. FD活動の理念、活動計画を理解する。
2. 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する。
3. 授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする。
4. FD参加者同士の仲間づくりをする。

*講師

川野卓二、宮田政徳、香川順子、吉田博（徳島大学大学開放実践センター）ほか

*日時

8月19日(金)～20日(土)

*場所

徳島大学大学開放実践センター2階（6号館 201）等

*受講定員

30名

*主催

徳島大学大学教育委員会・FD専門委員会

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合先

徳島大学・大学開放実践センター
E-mail: t-spod@cue.
tokushima-u.ac.jp

内容

1日目

1. オリエンテーション
研修のねらいと意義
進め方とスタッフ紹介
2. アイスブレイク
参加者自己紹介・ゲーム等
3. ワークショップ
学生の学びを促す授業とは？
(KJ法による分析)
4. 講義Ⅰ 授業実践の方法
シラバスの意義、作成方法
授業計画の立て方、評価方法
5. ワークⅠ 授業設計
シラバス、授業計画の作成
6. 講義Ⅱ 授業実践の方法
学生中心の学習形態と方法
教材作成の方法

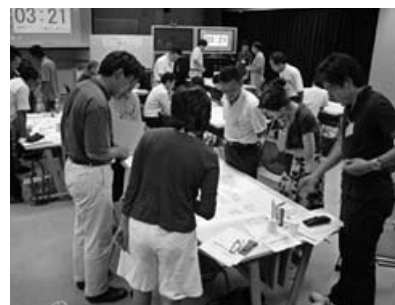


2日目

7. ワークⅡ 教材研究
模擬授業へ向けての教材作成
8. 模擬授業
授業紹介、模擬授業の実施とふりかえり
9. プログラムのまとめ
活動のふりかえり
アンケート

(備考)

※二日間通しの参加となります。
一日だけの参加はできません。



▶参考資料

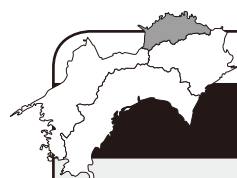
徳島大学FD推進ハンドブック（第1巻～第4巻）

▶受講者の声（2010年度アンケートより）

- シラバスの書き方、評価基準の設定の仕方などを学べた。
- 自分の講義に活用できるポイントが多数あった。
- 他の学部の先生方の講義が新鮮であり、また今後の参考になった。
- 他の大学の先生の全く初めての分野に出会え、非常に参考になり、楽しかった。

▶準備物等

当日模擬授業を行いますので、事前にどのような授業を行うか大体の案をお考えください。また、必要な教材の素材等のご準備をお願いいたします。



プログラム番号 K-001

新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」

FD

***主な対象**

新規採用された教員（大学での授業担当経験5年以上を除く）
参加を希望する教員

***対象校**

SPOD加盟校(香川県内のみ)

***目標**

授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連のプロセスをグループワーク形式で体験し、授業実践のために必要な能力を身につける。

***講師**

香川大学大学教育開発センター
教員

***日時**

9月中旬

***場所**

四国電力(株)総合研修センター
(高松市内)

***受講定員**

30名

***主催**

香川大学大学教育開発センター

***その他**

要問い合わせ

***申込先・問合せ**

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : sokyoyot@jim.ao.
kagawa-u.ac.jp

内容

1日目

1. オリエンテーション
2. アイスブレイク
3. グループワークⅠ「学生の考える良い授業と悪い授業」
4. 講義Ⅰ「シラバスの書き方」
目標設定の仕方
授業計画の立て方
5. グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」
目標設定
授業計画
シラバス作成
6. 講義Ⅱ「様々な授業方法」
講義形式のメリット・デメリット
双方向型授業のコツ
体験型授業
参加型授業
7. 講義Ⅲ「よりよい成績評価の仕方」
成績評価の目的
評価の方法と評価対象
8. グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」
授業計画・評価計画の準備
9. グループ発表Ⅰ「中間発表」
10. グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」
授業計画案作成

2日目

11. グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」
役割決定
授業の練習
11. グループ発表Ⅱ「ミニ授業」
12. 反省会

(※宿泊研修です。1日だけの参加はできません。)

▶参考資料

『愛媛大学FDハンドブック もっと!! 授業を良くする』第1巻改訂第2版
『愛媛大学FDハンドブック もっと!! 授業を良くする』第2巻改訂第2版

▶受講者の声 (アンケートなどから)

○実際にグループワークを行ったことにより、1つの仕事を皆で作上げていくプロセスを体験できました。グループワークは、知識獲得だけでなく、学生の主体性、他者との意見の相互調整能力なども育てることができると感じました。何より、とても心に残る授業になります。また、シラバスの書き方、コミュニケーションカードやクリッカーなど、学生とのコミュニケーションの具体的な方法は、すぐにでも実践したいと思います。

○グループワークは、演習でのみ可能だと考えていましたが、普通の授業でも用いることができる、そういう可能性を感じました。実際の授業で用いて試してみたいと思っています。また、評価方法も様々なやり方があることを知り、勉強になりました。

○ワークショップでは学生視点の授業、シラバスと授業の整合性、それに向けた教材作り、授業計画を身をもって体験することができたことが何よりの収穫でした。技術論ではなく、方法論を学びたいと思っていましたので本当に貴重な経験ができたことがよかったです。先生方と協力して創り上げることの意義を学びました。教育実践ではグループワーク作業の振り返りをやってみたいと思います。成果を考えることにより、改めて認知し、学習意欲を高められるように行っていききたいと思います。

プログラム番号 I-001, I-002

授業デザインワークショップ

FD

*主な対象

愛媛大学教員のうち、下記のいずれかに該当する者
 ①新規採用された教員(大学での授業担当経験5年以上を除く)
 ②新たに大学の授業を担当した教員
 ③昨年度対象者で都合により欠席した該当教員
 ④参加を希望する教員
 SPOD加盟校教員のうち、参加を希望する者

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

1. 適切な目的・目標設定ができるようになる。
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる。
3. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
4. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
5. グループ学習の手法を、自らの授業で導入することができるようになる。

*講師

小林直人、佐藤浩章、山田剛史、城間祥子、大竹奈津子(愛媛大学教育企画室)

*日時

7月9日(土)~10日(日)(第16回)
 8月31日(水)~9月1日(木)(第17回)

*場所

久万高原ふるさと旅行村(7月)
 国立大洲青少年交流の家(9月)

*受講定員

7月 25名
 9月 50名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)、SPOD

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
 E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

内容

1日目

1. オリエンテーション

- ・愛媛大学における教育改善
- ・研修の目的・目標の確認
- ・スタッフの紹介とお願い
- ・自己紹介
- ・グループワーク

2. アイスブレイキング

3. グループワーク I

4. 講義 I

「学生の学習を促進する授業、学習を促進しない授業」
 「目標設定と授業計画・シラバスの作成」

- ・目標設定と授業計画の立て方
- ・シラバスの書き方

5. グループワーク II

「共通教育科目の開発 I」

- ・目標設定
- ・授業計画、シラバスを作る

6. 講義 II

「様々な授業方法」

- ・講義形式のメリット・デメリット
- ・双方向型授業のコツ
- ・マイクロティーチング

7. グループワーク III

「共通教育科目の開発 II」

- ・授業計画と評価計画

8. グループ発表 I

「中間発表」

9. グループワーク IV

「共通教育科目の開発 III」

- ・指導案づくり

2日目

10. 講義 III

「学習評価方法」

- ・学習評価の目的
- ・評価方法と評価対象
- ・試験問題の出し方

11. グループワーク V

「共通教育科目の開発 IV」

- ・役割決定
- ・授業練習

12. グループ発表 II

「ミニ授業(導入の10分)」

- ・授業紹介
- ・ミニ授業
- ・他グループからのフィードバック
- ・フロアも交えた討議・検討

13. 振り返り

* 1泊2日の宿泊研修となります。途中の出入りはできません。

▶参考資料

『愛媛大学FDハンドブック もっと!!授業を良くする』第1巻

『愛媛大学FDハンドブック もっと!!授業を良くする』第2巻(愛媛大学教育企画室作成)

佐藤浩章 編『大学教員のための授業手法とデザイン』(玉川大学出版部)

▶受講者の声

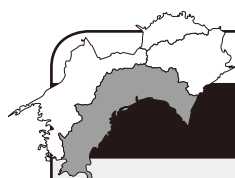
○当初はあまり乗り気ではなかったが、スタッフの教育に対する姿勢と知識に驚かされてとても有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。

○専門を異にする他学部の教員と専門外のシラバスを作るという作業は、様々な考え方や物の見方に触れることができ、刺激に満ちたものだった。

○キャンパスを離れた自然の豊かな高原で、日常の煩雑な業務で疲労した心身をリフレッシュすることができました。タイトスケジュールにより内容の充実した研修が展開されたことにより、参加したことに一層大きな意義を感じました。数多くのグループワークを通して、学生の立場から改めて授業運営を見つめ直すことができました。

○研修を通じて、授業の意味や教員の役割を改めて考えることができ、学生の視点やレディネスについて意識するようになった点が良かったと思います。独り善がりな授業にしたいと強く思うようになりました。今回学んだことは、断続的に実践していきたいと思います。私は授業経験がなく不安を感じながら参加しましたが、分かりやすい講義内容だし、グループワークにも参加しやすく、構えなくても参加できる研修でした。このような有意義なワークショップにもっと多くの教員が参加することを望みます。





プログラム番号 Y-001

学生の学びを支援する授業の準備 (新任教員FDワークショップ)

FD

*主な対象

新任教員 (大学での授業担当経験 5 年未満) および新たに大学の授業を担当した教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

塩崎俊彦, 立川明, 俣野秀典 (高知大学総合教育センター)

*日時

9月1日(木)~2日(金)(2日間)
9:00~17:00

*場所

未定

*受講定員

40 名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

1. 適切な授業の目的・目標設定ができるようになる。
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる。
3. 学習成果 (ラーニング・アウトカムズ) を意識して授業デザインができるようになる。
4. 学生参加型のグループ作業を自らの授業で導入することができるようになる。

内容

1日目

1. オリエンテーション／アイスブレイキング
2. グループワーク「良い授業とは？」
3. ミニレクチャー「目標設定と授業計画, シラバスの書き方」
4. グループワーク「共通教育科目の開発① (目標設定と授業計画)」
5. ミニレクチャー「様々な授業形態, それぞれのメリットとデメリット」
6. ミニレクチャー「様々な成績評価, その目的と方法」
7. グループワーク「共通教育科目の開発② (授業計画と評価の方法・スケジュール)」
8. グループ発表「グループワーク中間報告」
9. グループワーク「共通教育科目の開発③ (授業の計画・指導案)」

2日目

10. グループワーク「共通教育科目の開発④ (最終発表準備)」
11. グループ発表「新科目の紹介とミニ授業」
12. ふりかえり



▶参考資料

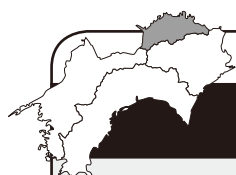
『大学教員のための授業方法とデザイン』(佐藤浩章編/玉川大学出版部)

『FDハンドブック Tips集 1 ~ 6』(高知大学総合教育センター)

『授業をもっと良くできる! 授業改善アンケート, ピア・レビュー, 授業参観の進め方』(高知大学総合教育センター)

▶受講者の声

○シラバスの作り方 (目的・目標・成績評価の書き方など) や注意点がよくわかった。
 ○「評価」も期末レポート (試験) の一発勝負だったので, 今後は工夫しようと思いました。
 ○初めてグループワークを経験しましたが, メンバーと短時間で親密になることができたので良かったです。グループワークを自分の講義に活かそうと思いました。
 ○他の大学の方とグループワークの中で話ができて, 授業の進め方や方法についてヒントを教わり, 各々が抱えている問題点も共有できて良かった。
 ○グループワーク等に具体的なコメントを返して下さっており, 今後に役に立つコメントを受講中多く頂きました。



プログラム番号 K-014

講義法の基本

FD

主な対象

これから授業を担当する教員、
これまでの講義法をよりよいもの
にしたい教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

葛城浩一（香川大学大学教育開
発センター）

日時

未定

場所

香川県立保健医療大学講義棟

受講定員

60名

主催

香川県立保健医療大学FD委員会、SPOD

その他

要問い合わせ

申込先・問合せ

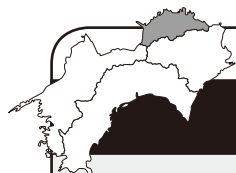
香川県立保健医療大学
E-mail : hokeniryodaigaku@pref.
kagawa.lg.jp

目標

自分の授業で応用可能なコツをひとつ
以上持ち帰る。

内容

1. はじめに
2. 構成をしっかりと考える
3. 明確に話す
4. 匿名空間にしない
5. ペア／グループ・ワークを
挿入する
6. 発問で刺激を
7. 資料配布・回収やテストを
効率的に行う
8. 学習を阻害する行為を管理する
9. まとめ



プログラム番号 K-015

講義法の基本

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

佐藤慶太（香川大学大学教育開
発センター）

日時

7月30日(土)10:00～12:00

場所

高松大学、高松短期大学 2号
館1階2105・2106講義室

受講定員

60名程度

主催

高松大学、高松短期大学、SPOD

その他

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

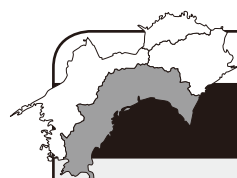
高松大学・高松短期大学
総務部企画課
E-mail : kikaku@takamatsu-u.ac.jp

目標

- ①大規模クラスの特長性について説明
することができる。
- ②様々な授業スキルを実際の体験を通
して習得し、習得したことを自分の
授業に生かすことができる。

内容

1. はじめに一大規模クラスの特長性
2. 構成をしっかりと考える
3. 明確に話す
4. 匿名空間にしない
5. ペアワーク／グループワークを
挿入する
6. 発問で刺激する
7. 資料配布・回収テストを効率的に
行う
8. 学習を阻害する行動を管理する
9. まとめ



プログラム番号 Y-014

講義法の基本

FD

主な対象

職員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

佐藤慶太 (香川大学大学教育開発センター)

日時

8月30日(火) 13:00~15:00

場所

高知学園短期大学 大会議室

受講定員

60名

主催

高知学園短期大学FD委員会, SPOD

メー切

開講日2週間前, 先着順

申込先・問合せ先

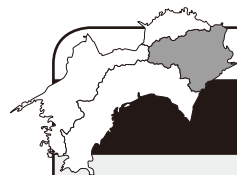
高知学園短期大学 F D 委員会
E-mail : kyoumu@kochi-gc.ac.jp

目標

自分の授業で応用可能なコツをひとつ以上持ち帰る。

内容

1. はじめに
2. 構成をしっかりと考える
3. 明確に話す
4. 匿名空間にしない
5. ペア/グループ・ワークを挿入する
6. 発問で刺激を
7. 資料配付・回収やテストを効率的に行う
8. 学習を阻害する行為を管理する
9. まとめ



プログラム番号 T-009

様々な授業改善の技法

FD

主な対象

教員, FD担当教職員

対象校

SPOD加盟校 (徳島県内のみ)

目標

右記参照

講師

佐藤浩章 (愛媛大学教育企画室)

日時

未定

場所

未定

受講定員

150名

主催

徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部, SPOD

メー切

開講日2週間前, 先着順

申込先・問合せ先

徳島文理大学教育・研究支援グループ
E-mail : kyokeng@tokushima.bunri-u.ac.jp

目標

1. 授業アンケートの特徴・効果的な実施方法・活用方法を説明できる。
2. 公開授業の特徴・効果的な実施方法・活用方法を説明できる。
3. 授業コンサルテーションの特徴・効果的な実施方法・活用方法を説明できる。

内容

1. 愛媛大学のFD事例
2. 授業評価の特徴・効果的な実施方法・活用方法
3. 公開授業の特徴・効果的な実施方法・活用方法
4. 授業コンサルテーションの特徴・効果的な実施方法・活用方法

▶受講者の声

- 具体的に授業評価の改善点をつかめた。
- 授業評価にも段階があり、授業評価の目的により質問項目の工夫が必要であることが理解できた。後期から実践したいと思う。

▶参考資料

6-1. 愛媛大学の授業コンサルテーション

◆MSF (Midterm Student Feedback: 中間期振り返り)

2004年度前期~2006年度前期 毎学期3クラス、3名程度

2006年度後期 9クラス6名

2007年度前期 6クラス1名

2007年度後期 7クラス4名

2008年度前期 5クラス3名

2008年度後期 6クラス6名

2009年度前期 3クラス3名

2009年度後期 14クラス13名

◆ビデオ撮影サービス

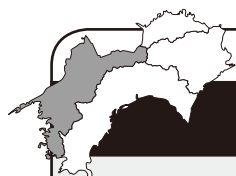
2007年度前期1クラス1名

◆シラバス作成支援サービス

過去約10名



E-MAIL UNIVERSITY



プログラム番号 I-037

様々な授業改善の技法

FD

主な対象

授業改善に取り組みたい教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

俣野秀典（高知大学総合教育センター）

日時

9月20日(火) 10:00～12:00

場所

今治明德短期大学会議室または視聴覚室

受講定員

40名

主催

今治明德短期大学FD委員会、SPOD

その他

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

今治明德短期大学FD委員会
E-mail: smori@meitan.ac.jp

目標

1. FDの意義と目的を説明できる。
2. 授業改善の方法を三つ以上挙げられる。
3. 学生参加型の授業を心がける。

▶参考資料

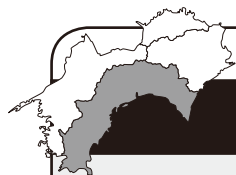
『FD Handbook 2010』（高知大学総合教育センター）

『FDハンドブック Tips集 1～6』（高知大学総合教育センター）

内容

本プログラムは、FDの基本的事項を理解した上で自分にあった授業改善活動を実施できるようになることを目的とします。

1. “Faculty Development” はなぜ必要になったか
 - ・教育の質保証
 - ・アウトカムを重視した教育
2. 授業改善の方法
 - ～高知大学の事例を中心に～
 - ・授業改善アンケート
 - ・ピア・レビュー
 - ・授業参観
 - ・アクションプラン
 - ・授業期間の早い段階での評価
3. 学生が参加する授業への工夫
 - ・多様な学生が同居する授業
 - ・演習や実技
4. まとめ



プログラム番号 Y-012

様々な授業改善の技法

FD

主な対象

教員（特に教員経験の浅い教員に強く推奨する。）

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

立川明（高知大学総合教育センター）

日時

未定

場所

高知県立大学池キャンパス

受講定員

未定

主催

高知県立大学・高知短期大学、SPOD

その他

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

高知県立大学法人 法人経営室
E-mail: kurohara@cc.u-kochi.ac.jp
fukusima@cc.u-kochi.ac.jp

目標

学生の学習ニーズに対応するための授業展開及び授業技法のあり方について講義を受け、参加者のスキルアップを目指す。

内容

詳しい内容については、問い合わせ先にお問い合わせください。

また、詳細は決まり次第、SPODホームページ (<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>) に掲載しますので、ご参照ください。

プログラム番号 K-002

学習評価の基本

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤慶太（香川大学大学教育開発センター）

*日時

11月11日(金)13:00～15:00

*場所

生涯学習教育研究センター第1講義室（研究交流棟6階）

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: sokoyot@jim.ao.
kagawa-u.ac.jp

目標

- ①学習評価の意義と原則を説明することができる。
- ②多様な学習評価方法を知り、自らの授業で活用できる。
- ③成績評価において注意すべき点を説明することができる。

内容

1. 学習評価の意義
 - ・ どうして成績評価をするのか
 - ・ GPA制度について
2. 学習評価の原則
 - ・ いつ、なにを、どのように評価するのか。
 - ・ 総括的評価と形成的評価
3. 様々な学習評価方法
 - ・ テストによる評価
 - ・ レポートによる評価
 - ・ グループワークによる評価
4. 評価の際の注意点
 - ・ 試験を実施する際の条件
 - ・ 成績点と合否判定
 - ・ 評価にまつわるトラブル

プログラム番号 I-003

学習評価の基本

遠隔

FD

*主な対象

学習評価に関わる教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

1. 学習評価の原則を説明することができる。
2. 形成的評価と総括的評価の違いと重要性を説明できる。
3. 多様な学習評価方法を知り、自らの授業で活用できる。

*講師

城間祥子(愛媛大学教育企画室)

*日時

8月23日(火)15:30～17:30

*場所

愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）、SPOD

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

内容

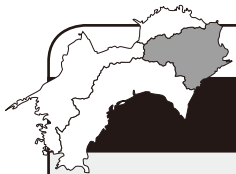
1. 評価の基礎知識
2. テストに関するいくつかの知識
3. 総合的な評価
 - ・ ルーブリック評価
 - ・ 学生の自己評価／相互評価
 - ・ 行動を評価する実技試験
4. Q&A

▶受講者の声

- ヒントに満ちた内容でした。ルーブリックの評価への適用も興味深いだけでなく、学生の自主学習を促す工夫の実例なども参考にして、すぐにも使えそうです。
- 具体例を多く挙げていただいたので、理解するだけでなく自分のフィールドを思い浮かべることが出来ました。
- 授業プログラム・計画・デザインの必要性を感じ、今後計画表の中に評価基準・方法を入れていきます。

▶参考資料

ルーブリック評価の例			
項目	レベルA	レベルB	レベルC
準備	すべての適切な材料が揃っており、レポートに記述されている。	すべての材料が揃っているが、レポートに記述されていない。もしくは不正確で補正しなくてはならない。	必要な材料がなく、レポートへの記述もない。大きな手直しがある。
手順	手順は明確な手順に沿ってよく考えられており、適切である。	手順はもっとも効率よく工夫することが可能であるが、不適切である。	不適切な手順である。
安全性	安全に保たれており、リスクを最小限に抑えている。	安全に保たれているが、リスクを最小限に抑えている。	危険な行為があった。
説明			
...			
...			



プログラム番号 T-011

学習評価の基本

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD加盟校（高専のみ）

目標

右記参照

講師

宮田政徳、吉田博（徳島大学
大学開放実践センター）

日時

12月中

場所

阿南工業高等専門学校4階マルチメディア室

受講定員

約80名

主催

阿南工業高等専門学校点検・評
価委員会、SPOD

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

阿南工業高等専門学校総務課
E-mail : s-hosasoumu@
anan-nct.ac.jp

目標

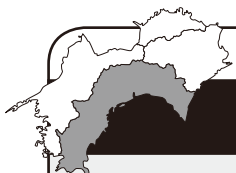
1. 学生の学習状況を適切に評価する
ための多様な学習評価方法を1つ
以上挙げることができる。
2. ルーブリックを用いた評価法を作成
することができる。
3. 参加者同士で相互に適切なコメント
をすることができる。

▶参考資料

ルーブリックサンプル

内容

- ・講演「学習評価の基本」：学習評価の
目的や多様な学習評価法の種類を理
解する。
- ・ワークショップ：グループに分かれ
て一つの学習評価法の例としてルー
ブリック評価法を作成し、全体会で
グループ毎の発表を行う。



プログラム番号 Y-002

成績評価とフィードバックー評価の原則からルーブリック評価までー

FD

主な対象

目標に準拠した評価方法を習得
したい教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

俣野秀典（高知大学総合教育センター）

日時

9月16日（金）10:00～12:00

場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

受講定員

30人

主催

高知大学総合教育センター大学
教育創造部門

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

1. 成績評価の意義と目的を説明する
ことができる。
2. 到達目標にあわせた評価の方法・
基準を設定・開発できる。
3. 適切なフィードバックを行うこと
ができる。
4. 客観的かつ厳格な成績評価を心が
ける。

内容

成績評価について、多様な評価基準を
設定することが求められております。昨
年度からの高知大学『シラバス入力手順
説明書』において、“具体的な評価基準は
ルーブリック評価シートを事前に配布し、
配点30点とする”との例も示されており、
ルーブリックって何?? と、戸惑われた教
員の方も多いと聞いております。

そこで、本プログラムは、ルーブリック
を含めた教育の評価についての基本的
な考え方を理解することを目的として実
施されます。

1. 背景

- ・厳格な成績評価

- ・近年の高等教育における議論

2. 成績評価

- ・評価の意義と目的
- ・診断的・形成的・総括的評価
- ・評価規準と評価基準
- ・評価の手順・流れ
- ・さまざまな成績評価の方法

3. ルーブリック評価

- ・ルーブリックとは
- ・ルーブリックの有効性
- ・国内外におけるルーブリックの例
- ・ルーブリック作成ミニ演習

4. フィードバック

- ・フィードバックの意義と目的
- ・フィードバックを促す方法
- ・大人数講義でのフィードバック例

5. まとめ

▶受講者の声

- 参加したセミナーで最も目標達成を
意識することができた。
- ルーブリック評価のことが分かっ
た！ 特に有効な点が分かった！ あ
りがとうございました！！

プログラム番号 K-003

シラバスの書き方

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

宮田政徳、吉田博（徳島大学大学開放実践センター）

*日時

12月中

*場所

香川大学生涯学習教育研究センター第1講義室（研究交流棟6階）（予定）

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター、SPOD

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail : sokyoyot@jim.ao.
kagawa-u.ac.jp

目標

- ・シラバスの定義及び内容を説明することができる
- ・シラバスの適切な目的・目標を書くことができる
- ・シラバスで効果的な学習を促すスケジュールをコースデザインできる

内容

1. シラバスとは何か
2. シラバスの項目例
3. 授業科目名の書き方
4. 目的の書き方
5. 目標の書き方
6. 授業計画の書き方
7. 受講のルールの書き方
8. 教材に関わる情報の書き方
9. 評価に関わる情報の書き方
10. オフィスアワーの書き方

準備物 未定

参考資料 様々な大学のシラバスサンプル

プログラム番号 I-004

グラフィック・シラバスの作成方法

遠隔

FD

*主な対象

これから授業を担当する教員、これまで作ったシラバスをよりよいものにしたい教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤浩章（愛媛大学教育企画室）

*日時

8月23日(火)13:00～15:00

*場所

愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）、SPOD

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

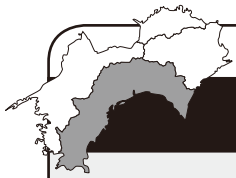
1. テキスト・シラバスのデメリットを述べるができる。
2. グラフィック・シラバスのメリットを述べるができる。
3. 自身のテキスト・シラバスをグラフィック・シラバスに表現することができる。

内容

現状の文字で記述されたシラバスで、学習内容の構造を示すのには限界があります。シラバスを図示化することで、学習者に学習内容の構造をより良く理解してもらうことができます。グラフィック・シラバスを作成する過程で、教員自身は学習内容の重複や欠損部分を知ると同時に、本当に学習してもらうべき部分はどこかを明確に理解し、授業内容やその構造を作成し直すこともできます。

1. テキスト・シラバスのデメリット
2. グラフィック・シラバスとは何か？
3. グラフィック・シラバスのメリット
4. グラフィック・シラバスの作成

準備物 参加者は自身のシラバスを持参して下さい。



プログラム番号 Y-003

学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方

FD*

*主な対象

授業改善をしたい教員、大学の教員を目指す学生

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

塩崎俊彦、立川明、保野秀典（高知大学総合教育センター）

*日時

9月16日（金）13:30～16:00

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

30名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*その他

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

- ・学習成果（ラーニングアウトカムズ）を意識してシラバスを書くことができる。
- ・良いシラバスを書く必要性が理解できる。

内容

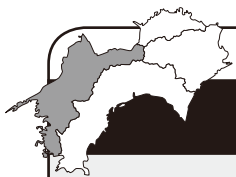
- ・ミニ講義「なぜ良いシラバスを書く必要があるか？（現状分析）」
- ・このワークショップの目標とプログラム
- ・レクチャーおよびワークショップ
 - ・レクチャー「各項目の書き方と注意点」
 - ・ワークショップ「良い目標の書き方」
 - ・ワークショップ「話の流れのセオリー」
- ・グループワーク「成績評価をどうするのか？」
- ・ミニ講義「いろいろな成績評価の方法」
- ・実習シラバスの作成（自分のシラバスを修正する）
- ・グループワーク シラバス交換とフィードバック
- ・プレゼンテーション「シラバス作成・修正の工夫」

準備物について

ご自身のシラバス

▶参考資料

「Faculty Development Handbook Vol.1 第二版 ～もっと!授業を良くするために～」愛媛大学教育企画室 (http://web.opar.ehime-u.ac.jp/publishment_hdbook.htm)



プログラム番号 I-005

学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法

遠隔

FD

*主な対象

これから授業を担当する教員、これまで作ったシラバスをよりよいものにしたい教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤浩章、城間祥子（愛媛大学教育企画室）

*日時

1月中旬

*場所

愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）、SPOD

*その他

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

- ①わかりやすいシラバスを書くことができるようになる。
- ②学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。

内容

1. シラバスとは何か？
 - ・定義
2. 授業題目・キーワードの書き方
 - ・英文併記
 - ・わかりやすく書く
3. 授業目的と到達目標の書き方
 - ・授業の目的の書き方
 - ・到達目標の書き方

▶参加者の声

- 目的と目標の違いがクリアになった。シラバスの重要性がより明確になった。
- シラバスを学生がどう利用しているか分かったので、シラバスの作成方法が納得できた。シラバスはなるべく皆さんの情報を明記したほうが良い事もわかった。シラバスの効果が最初に説明がありよかった。

4. 授業内容・スケジュールの書き方

- ・無理のない進み具合

5. 受講生に関わる情報の書き方

- ・受講にあたっての前提条件
- ・ニーズと授業内容のミスマッチ防止

6. 受講ルールの書き方

- ・受講マナー

7. 教材情報の書き方

- ・学問への誘い

8. 評価情報の書き方

▶準備物

ご自分の授業のシラバスをご持参下さい

▶参考資料

4. 授業目的と到達目標の書き方
- 1) 現実的
 - 2) わかりやすく
 - ・複数の目的・目標を混在させない。
 - ・知識／態度／技能に分けて書く
 - 3) カリキュラムの中での位置づけを明示

『FDハンドブック第1巻』『FDハンドブック第2巻』（愛媛大学教育企画室作成）
佐藤浩章編『大学教員のための授業方法とデザイン』（玉川大学出版部）

プログラム番号 K-004

協同学習の技法(入門編)

FD

*主な対象

(1) 協同学習の基本について学びたいと考えている教員。(2) 自分の授業に協同学習を導入したいと考えている教員。

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

岩中貴裕(香川大学大学教育開発センター)

*日時

3月9日(金)14:40~16:10

*場所

生涯学習教育研究センター第1講義室(研究交流棟6階)

*受講定員

20名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: sokyoyot@jim.ao.
kagawa-u.ac.jp

目標

1. 協同学習の有効性について説明することができる。
2. どのような協同学習があるのかを3つ以上挙げて, その手順を説明することができる。
3. 協同学習を自らの授業で導入することができる。

内容

下記の順序で講座を行ないます。講座は講義の部分と演習の部分から成り立っています。

1. 協同学習とは?(講義)(30分程度)
協同学習についての基礎的な情報を提供し, 協同学習が学びを促し高

める根拠について説明します。その後で, 代表的な協同学習の手法をいくつか紹介します。

2. 協同学習を体験してみよう(演習)(30分程度)

授業の中で簡単に導入できる協同学習(話し合いの技法)を3つ程度体験していただきます。

3. 協同学習を自分の授業に導入してみよう(演習)(20分程度)

各自の授業で, どのような協同学習の技法を導入したら良いのかについて考えてもらいます。

4. 質疑応答・まとめ(10分程度)

▶準備物について

既に自分の授業で協同学習を導入されている方は, その授業のシラバスをお持ちください。これまでに自分の授業で協同学習を導入した経験がない方は, これから協同学習を導入したいと考えている授業のシラバスをお持ちください。

▶参考資料(購入の必要なし)

Barkley, E., Cross, K., & Major, C. (2005). *Collaborative learning techniques: A handbook for college faculty*. New York: John Wiley & Sons, Inc. (安永悟(監訳)(2009).『協同学習の技法・大学教育の手引き』東京: ナカニシヤ出版.)
Jacobs, G., Power, M., & Inn, L. (2002). *The teacher's sourcebook for cooperative learning: Practical techniques, basic principles, and frequently asked questions*. London: Sage Publications Ltd. (関田一彦(監訳), 伏野久美子, 木村春美(訳)(2005).『先生のためのアイデアブック・協同学習の基本原則とテクニック』東京: ナカニシヤ出版.)

プログラム番号 I-006

グループ学習のコツ

FD

*主な対象

授業でのグループワークやゼミでのディスカッションをより活性化させたい教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤浩章, 小林直人, 城間祥子(愛媛大学教育企画室)

*日時

9月13日(火)13:00~15:00

*場所

愛大ミュージックアクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点), SPOD

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. 学生がいきいきとグループワークに参加できる仕組みについて説明することができる。
2. 現状よりも活発なグループワークをしかけることができるようになる。

内容

1. アイスブレイク
・自己紹介
2. グループワーク
・いいグループワーク
・悪いグループワーク

▶受講者の声

○私にとっては目からうろこでした。グループワークだけでなく日頃の授業にも活かせる内容だったと思います。

○グループワークの具体的な進め方に関して理解することが出来た。

3. 成功するグループワークのカギ

- ・第一のカギ
- ・第二のカギ
- ・第三のカギ

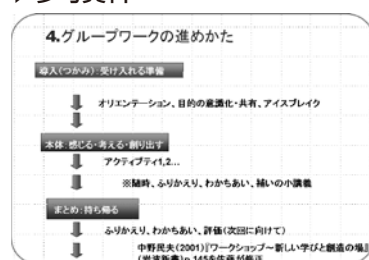
4. グループワークの進め方

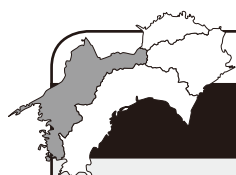
- ・グループワークの流れ
- ・ファシリテーターの基本スキル

5. グループワークの必須アイテム

6. 振り返りと質疑応答

▶参考資料





プログラム番号 I-007

効果的なグループワークの技法 -進度を落とさずチーム学習(チーム基盤学習:TBL)で教育効果UP!- **FD**

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

立川明(高知大学総合教育センター)

*日時

9月13日(水) 13:00~15:00

*場所

愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点), SPOD

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

- ・ PBLと比較してTBLの特徴を3つ言える
- ・ TBLの流れが説明できる
- ・ TBLに適した問題を作ることができる

内容(プログラム)

- 13:00 TBLとは～基本的考え方～
- 13:10 TBL のながれ
- 13:20 グループの作り方
- 13:50 体験してみようTBLの実際
- 14:20 (休憩)
- 14:30 TBL問題の作り方
- 14:40 体験してみようTBL応用課題
- 15:40 TBLの特徴
- 15:50 まとめ(ミニレクチャー)・アンケート
- 16:00 (終了)

▶参考資料

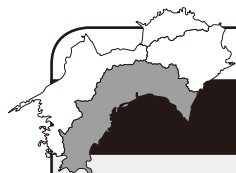
Tips5 TBL(チーム基盤学習)で授業改善(高知大学)

▶準備物

4色ボールペン(赤・青・緑・黒)

▶受講者の声

- 実際に授業に活用できる手法を学べた。また、何がポイントか、改めて理解できた。
- グループワークについての新しい手法、ツールを習得することが出来ました。
- 実際に体験しながら受講できたので、納得度が高まった。楽しみながら受講できた。



プログラム番号 Y-004

学生の能動学習を引き出す仕組みTBL(チーム基盤学習) **FD***

*主な対象

進度を落とさず能動学習を授業に取り入れたい教員および教員志望の学生

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

TBL(チーム基盤学習)の準備と実施手順・方法の実際を知る。自分の授業にTBLを取り入れるための準備ができる。

*講師

立川明(高知大学総合教育センター)

*日時

9月14日(水) 13:30~16:30

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

30名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

内容

- ・ レクチャー「TBLの目的・効果」
- ・ 進度を落とさず能動学習ができる仕組み
- ・ チームで取り組む意義とねらい
- ・ 時間外学習の効果と単位の実質化
- ・ レクチャー「TBLの手順」
- ・ 計画の提示
- ・ 準備確認試験の準備
- ・ グループ試験のやり方
- ・ アピール(試験問題のバグをなくす仕組み)
- ・ 応用課題
- ・ 教員の役割と授業効果の引き出し方
- ・ ワークショップ「グループ作成の方法」
- ・ ワークショップ「個別準備確認試験・グループ準備確認試験(メールのマナー)」
- ・ レクチャー「よい準備確認試験」
- ・ Goodな問題, Betterな問題, Bestな問題
- ・ ワークショップ「準備確認試験の作成」
- ・ 意見交換

▶参考資料

「FDハンドブック Tips集 1~6」(高知大学総合教育センター)
「TBL - 医療人を育てるチーム基盤学習」株式会社シナジー

▶準備物について

実際に試験問題を作成します。お使いのテキストまたは学生への配付資料をご持参ください。

プログラム番号 Y-005

初年次科目のためのグループワークの技法

FD

*主な対象

グループワーク授業の担当者、特に初めてこの種の授業を担当する教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

塩崎俊彦、立川明、俣野秀典（高知大学総合教育センター）

*日時

3月13日(火) 13:30～17:00

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

30名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ先

高知大学学務部学務課

E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

- ・ 2つのタイプのグループワーク授業のねらいが説明できる。
- ・ グループワーク授業において、学習者の能動的な姿勢を引き出すための手法を、実際に体験しながら理解する。
- ・ グループワークに関与する際に教員が注意すべき事柄を理解する。

内容

- ・ ミニ講義 グループワーク授業／2つのねらいをもって
- ・ ワークショップ
 - ① アイスブレイクの手法
 - ② チームビルディングの手法
 - ③ さまざまなグループワーク
ZIGZAG・ワールドカフェなど
 - ④ プレゼンテーションの工夫

模擬的にグループワークを行うことで、その運営方法を理解します。

- ・ 振り返り

ワークショップで得た知見をグループで振り返ります。

プログラム番号 Y-006

講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～

FD

*主な対象

学生の学びを向上させるために、グループ・ペア学習を授業の一部に取り入れたい教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

俣野秀典（高知大学総合教育センター）

*日時

3月14日(水) 13:30～15:30

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

30名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ先

高知大学学務部学務課

E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

1. グループでの活動による学習の効果を説明できる。
2. 学生を参加させるための技法を目的に応じて選択できる。
3. 理解した内容を周囲に説明できる。

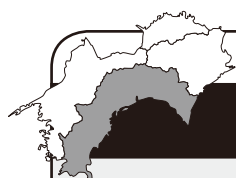
内容

本プログラムは、グループ・ペア学習の考え方や方法を、ワークショップ形式を取り入れながら、参加メンバーと共に学び、理解することを目的とします。

1. アイスブレイクの基本
2. 小グループ・ペア学習／能動的学習の効果
3. 学生を参加させるための要素・技法
4. 授業等への適用例
5. 学習課題の組み立て方
6. 振り返り

▶受講者の声

- 協同学習の定義・効果・技法についてきちんと学ぶことができて、本当に良かったです。
- ジグソー等の具体的な手法や、それを取り入れた授業の実例を知ることができ、自分のものに取り入れる際の参考になりました。



プログラム番号 Y-007

能動学習支援者必須！グループワークのためのファシリテーション入門 FD*

*主な対象

グループワークを主とする授業担当教員およびTA等として授業の補助を行う学生

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

塩崎俊彦, 立川明, 俣野秀典（高知大学総合教育センター）

*日時

3月26日（月）～27日（火）
（2日間）10:00～18:00

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

30名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

グループワークを主とする授業担当者にとって必須となる能力：ファシリテーション力を身につける。

グループ活動支援に必要なチームビルディングの方法を知る。

チームビルディングゲームの進め方を知る。

場の構築の重要性を理解する。
フィードバックの重要性を理解する。

ファシリテーションにおける注意点を知る。

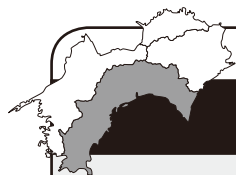
内容

1日目

- ・オリエンテーション
- ・導入実習「グループの作り方とアイスブレイキング（総当たり自己紹介）」・チーム・ビルディングゲーム「パスはまってくれない」
- ・ポスター掲示 & 休憩・昼食
- ・振り返り
- ・導入実習「ブレインストーミング」実施方法と導入質問作成
- ・チームビルディング実習「コンセンサスを求めて」
- ・振り返りと解説
- ・研修のまとめ（アンケート、アクションプラン、分かち合い）

2日目

- ・グループ討論「私の価値観」／振り返り
- ・チームビルディング実習「私のライフポジション」／解説
- ・チームビルディング実習「私を生かすコミュニケーション」・振り返り
- ・チームビルディング実習／振り返り
- ・チームビルディング実習「イメージ交換」
- ・解説「私の得たこと、学んだこと」
- ・研修のまとめ



プログラム番号 Y-015

効果的なグループワークの技法 FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

立川明（高知大学総合教育センター）

*日時

9月27日（火）13:20～17:00

*場所

高知工業高等専門学校環境都市デザイン工学科5年生教室

*受講定員

20名

*主催

高知工業高等専門学校, SPOD

*その他

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

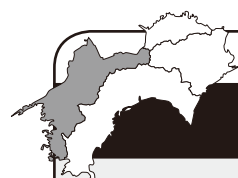
高知工業高等専門学校総務課
E-mail : watanabe@jm.kochi-ct.ac.jp

目標

- ・受講生の能動性を引き出すための「問」が作れる
- ・学生の能動性を維持するために必要な授業の組み立てができる
- ・自分の授業でアレンジして使えるグループワークの手法を3つ以上説明できる

内容（プログラム）

- 13:20 受講生の能動性を維持するために必要な基礎知識（レクチャー）
- 13:35 グループの作り方（ワークショップ）
- 14:05 アイスブレイキング（大好きマップ・総当たり自己紹介）
- 14:30 チームビルディングの手法（ワークショップ・コミュニケーション）
- 15:00（休憩）
- 15:10 ふりかえり（ワークショップ・ミニレクチャー）
- 15:40 理解促進テスト法（ワークショップ・電子メールのマナー）
- 16:10 ZIGZAG（またはWorld Cafe）（ワークショップ）
- 16:30 様々なグループワークの手法（ミニレクチャー）・アンケート
- 17:00（終了）



プログラム番号 I-008

クラスルームコントロール

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

秦敬治 (愛媛大学教育企画室)

*日時

9月20日(火) 13:00~15:00

*場所

愛大ミュージム1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点), SPOD

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ先

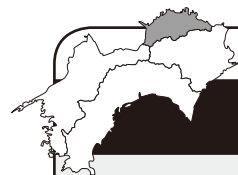
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

- ①学生を授業に集中させることができる
- ②学生のモチベーションを保つことができる
- ③学生とうまくコミュニケーションを取ることができる

内容

「居眠りをさせないためのコツ」「私語をさせないためのコツ」といった、学生を授業にうまく引き込み、学生のモチベーションを最初から最後まで高く維持するための手法について学びます。とくに、授業の準備段階から、授業開始時、途中、終了時において、段階的に効果的な「しかけ」を活用することで、学生が集中して授業に取り組むようになる手法について、講師の実践例を紹介しながら学びます。



プログラム番号 K-005

「プレゼンテーションの方法」の教え方

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

葛城浩一 (香川大学・大学教育開発センター)

*日時

3月6日(火) 13:00~14:30

*場所

生涯学習教育研究センター第1講義室 (研究交流棟6階)

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ先

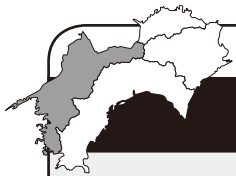
香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: sokyoyot@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

目標

1. プレゼンテーションの方法について学ぶ必要性を述べることができる。
2. 分かりやすいプレゼンテーションにする方法を説明することができる。
3. 分かりやすいプレゼンテーションを行うことができる。

内容

1. はじめに
2. プレゼンテーションって何?
3. わかりやすいコンテンツ (内容)
4. わかりやすくするテクニック (技法)
5. わかりやすくするツール (道具)
6. プレゼンテーションの流れ
7. 聴き手の作法
8. もう一度発表してみよう!
9. まとめ



プログラム番号 I-009

大人数講義法の基本

FD

主な対象

教員、とりわけ講義を受け持つようになつて間もない教員 (I-006とセットで受講することが推奨されますが、単独受講も大歓迎です)

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

小林直人 (愛媛大学教育企画室)

日時

8月26日(金)13:00~15:00

場所

愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2

受講定員

40名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)、SPOD

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために「良い」授業ができるようになる。
⇒ 「良い」授業とは？
・ わかりやすい授業
・ 知的な緊張感のある授業
・ 学生が参加する (した気にさせる) 授業
2. 様々な授業スキルを実際の体験を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことが出来る。

内容

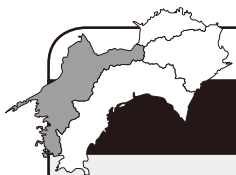
1. はじめに 敵を知り己を知る
2. 「授業スキル」のいろいろ
3. 「板書」の基本テクニック
4. 「プリント」の基本テクニック
5. 「コミュニケーション」の基本テクニック
6. 休憩とストレッチ
7. 参加/体験型授業の例
グループワークを経験する
8. 「キーワード」を明示する
9. まとめとセルフアセスメント
あらためて、「良い」授業とは？
10. 質疑応答

▶受講者の声

- 学生がノートに書き写しているときに教員は何をするかということが参考になった。
- 大人数講義で、学生とコミュニケーションをとる方法。授業に参加させる方法。授業効果を高める方法等々について、非常に詳しく具体的に学ぶことができた。

▶参考資料

- 「大学教員のための授業方法とデザイン」
佐藤・編、玉川大学出版部、2010
- 「成長するティップス先生」
(池田著、玉川大学出版部、2001)



プログラム番号 I-010

講義のための話し方入門

遠隔 FD

主な対象

教員、とりわけ講義を受け持つようになつて間もない教員 (I-000とセットで受講することが推奨されますが、単独受講も大歓迎です)

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

小林直人 (愛媛大学教育企画室)
飯島永津子 (愛媛大学医学部教育協力者)

日時

9月9日(金)15:30~17:30

場所

愛大ミュージアムアクティブ・ラーニングスペース2

受講定員

40名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点)、SPOD

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために「良い」授業ができるようになる。
⇒ 「良い」授業とは？
・ わかりやすい授業
・ 知的な緊張感のある授業
・ 学生が参加する (した気にさせる) 授業
2. 講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。

内容

1. イントロダクション
・ 本日のメニュー
・ 本日の目的と目標

▶受講者の声

- 子音でわかりにくい言葉の事例を聞いて納得。
- 自分では声は大きいし、大丈夫と思ってましたが、話し方には話す内容も大事だということをも再認識しました。

▶参考資料

- 「大学教員のための授業方法とデザイン」
佐藤編、玉川大学出版部、2010

2. 講師が気をつけていること
・ どうしたらわかりやすい話し方ができるか？
・ 発音しにくい言葉
・ 区別しにくい言葉
3. 実例を元に演習
・ 聞き手が理解しやすい話し方
・ どう話すか？の前に何を話すか？
4. 休憩とストレッチ
5. 外部講師 (教育協力者) による発声練習
・ 大きな声を出すためには？
・ はっきりと発音するためには？
6. まとめ・セルフアセスメント
・ あらためて、「良い」授業とは？
7. 質疑応答

どうしたら
分かりやすい話し方ができるか？

—小林が気をつけていること—

- ・ ゆっくり話す・大きな声で話す
- ・ 子音をはっきり話す
- ・ 否定後や文末を強調する
- ・ アイ・コンタクトして話す
- ・ 聞き手に近寄って行って話す
- ・ 特に抑揚をつけて前後に間を入れて
何度も繰り返して
- ・ キーワードを強調して話す
- ・ 紛らわしい言い方は避ける
- ・ 板書やプリントを併用する

プログラム番号 K-006

「レポートの書き方」の教え方

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

西本佳代 (香川大学教育・学生支援機構)

*日時

3月6日(火) 14:40~16:10

*場所

生涯学習教育研究センター第1講義室

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メ切

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: sokyoyot@jim.ao.
kagawa-u.ac.jp

目標

1. レポートの書き方の手順について説明することができる。
2. 出された課題に沿ったレポートを学生に書かせることができる。

内容

1. はじめに
 2. レポートと感想文との違い
 3. レポートの作成の手順
 4. レポート作成のルール
 5. まとめ
- 補論: 文献検索の方法

プログラム番号 K-007

「日本語技法」の教え方

FD

*主な対象

教員, 特に「日本語技法」を担当する教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

高水徹 (香川大学・インターナショナルオフィス)

*日時

3月8日(木) 13:00~16:10

*場所

生涯学習教育研究センター第1講義室
(研究交流棟6階)

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メ切

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: sokyoyot@jim.ao.
kagawa-u.ac.jp

目標

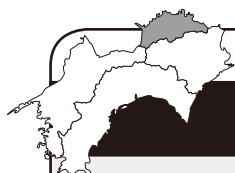
- 以下の2項目を学生に教えることができる。
- ・書き言葉による適切なコミュニケーション
 - ・プレゼンテーションやレポートに必要な文章技術

内容

- ・書き言葉による適切なコミュニケーション
 - ①はじめに
 - ②教職員へのメールの書き方
 - ③書き言葉による手順の説明
 - ④まとめ
- ・プレゼンテーションやレポートに必要な文章技術
 - ①はじめに
 - ②比較・対象の練習
 - ③箇条書きの練習
 - ④要約の練習
 - ⑤まとめ

▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編「教養ゼミナールハンドブック2011」
(参加者には配布します)



プログラム番号 K-008

「ノートを取り方」の教え方

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

佐藤慶太（香川大学・大学教育開発センター）

日時

3月9日(金) 13:00～14:30

場所

生涯学習教育研究センター第1講義室（研究交流棟6階）

受講定員

50名

主催

香川大学大学教育開発センター

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室学修支援グループ
E-mail: sokyoyot@jim.aoyagawa-u.ac.jp

目標

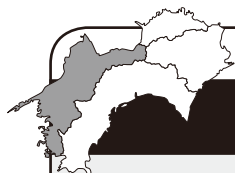
- ① ノートの取り方を学ぶ必要性を説明することができる。
- ② よいノートとはどのようなものか、説明することができる。
- ③ うまくノートをとるコツを説明することができる。

内容

- ① ノートを取るってどういうこと？
- ② よいノートの条件
- ③ よいノートを取るためのコツ
 - ・ 講義のスタイルの違い
 - ・ ノートの種類
 - ・ 授業前／授業中／授業後にすること
 - ・ ノートの取り方サンプル紹介
- ④ まとめ

▶参考資料

香川大学大学教育開発センター編「教養ゼミナールハンドブック2011」（参加者には配布します）



プログラム番号 I-011

Eラーニング入門

FD

主な対象

Eラーニングを使ってみたい、Eラーニングで何ができるのか知りたい教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

平田浩一（愛媛大学教育学部）
佐々木隆志（愛媛大学総合情報メディアセンター）

日時

9月2日(金) 15:30～17:30

場所

総合メディアセンター演習室1

受講定員

40名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）、SPOD

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. Eラーニングソフト Moodle を体験する。
2. Eラーニングで何ができるかを知る。
3. Eラーニングのコース作成法を学ぶ。

内容

1. Moodleとは
2. コースへのログイン

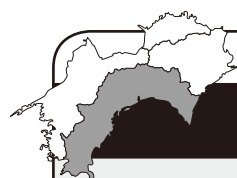
3. コンテンツ（文書＆動画）のアップロード
4. ファイルの取り扱い、ファイル名についての注意
5. フォーラム（掲示板）によるディスカッション
6. レポート課題の提出
7. 小テストの作成と実施
8. 採点と成績（評価）の管理
9. メールの送信（クイックメール）
10. ログの確認

▶受講者の声

「資料が充実していて、わかりやすく受講できました。」
「学生とのコミュニケーションが出来き、細かい指導が可能だと思いました。」

▶参考資料





プログラム番号 Y-008

自習を助ける教材を創る・発信するためのPowerPoint & Moodle入門

FD*

*主な対象

プレゼン技術を高めたい教職員および学生
Moodle を使って教材公開や学生支援をしたい教員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

立川明 (高知大学総合教育センター)

*日時

3月12日(月) 13:30

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

30名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

PowerPoint資料をいろいろなファイル形式で保存する方法を知る。
ファイル形式による違い、特徴を知る。
Moodleの基本的取り扱いを知る。

内容

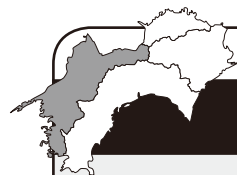
- ・事前調査とグループメンバー決定
- ・レクチャーと実習「プレゼンテーションの工夫」
- ・レクチャーと実習「音声付きPowerPoint資料の作成」
- ・レクチャーと実習「様々な保存方法」
- ・レクチャーと実習「ファイルの圧縮」
- ・レクチャーと実習「Moodleへのログイン」
- ・レクチャーと実習「コース作成」
- ・レクチャーと実習「Moodleへの圧縮ファイルアップロード」
- ・レクチャーと実習「Moodleでのファイル解凍」
- ・レクチャーと実習「Moodleでのテスト実施」

▶参考資料

「Moodle入門」井上博樹他 (海文堂)

▶準備物について

簡単なプレゼン資料 (5ページ程度) をPowerPointで、簡単な試験問題 (選択式2 ~ 3問) をWordまたはテキストファイルで準備してください。受講者は高知大学オンライン学習支援システム(Moodle)への登録が必要。ノートPC必携(貸し出し希望者は事前に連絡)。必ず事前申し込みを!



プログラム番号 I-012

英語で授業を教えたい教員のためのワークショップ

FD

*主な対象

教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

ルース・バーン (国際教育支援センター)
企画スタッフ
田中寿郎 (愛媛大学理工学研究所)
デイビッド・ボグダン (愛媛大学教育学部)
小林直人 (愛媛大学教育企画室)

*日時

8月30日(火) 15:30~17:30

*場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点), SPOD

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

*目標 (goal) *

英語で授業をするときの一般的なガイドラインを説明できる。
ロールプレイ形式のワークショップで、英語による授業を経験する。

To learn some general guidelines for teaching in English.

To have an opportunity to practice in a role-play style workshop.

*内容 (contents) *

1. 創成授業「異文化のまなざし」での事例報告
2. 英語で授業をする際の一般的なガイドラインについて
3. 質疑応答と休憩時間
4. 授業の「良くない例」の事例実演と

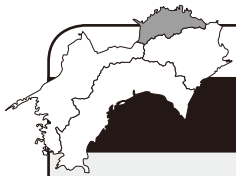
フィードバック

5. 英語のミニ講義を作るグループワーク
6. グループごとの模擬授業 ~留学生を前にして~
7. まとめと振り返り

1. Report on the Issues in Research classes
2. Go over general guidelines for teaching in English
3. Q&A/short break
4. Model class to use as demonstration "a bad example"
5. Divide into groups to make a short lecture
6. Presentation by participants
7. Summing up

▶受講者の声

- 久しぶりにネイティブの英語を生で聴けた。
- ワークショップの時間に実際に留学生が参加してくれたことで活気があり、授業中のような展開を想定したやり取りがあった事が特に良かった。
- グループディスカッションの重要性がよく分かった。
- 体験とレクチャーのバランスが良かった。



プログラム番号 K-009

ちょっと気になる学生への対応とその理解

FD

主な対象

教職員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

坂井聡（香川大学教育学部）

日時

9月7日(水) 10:00～12:00

場所

生涯学習教育研究センター第1
講義室（研究交流棟6階）

受講定員

50名

主催

香川大学大学教育開発センター

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: sokyoyot@jim.aio.
kagawa-u.ac.jp

目標

障がいのある学生が高等教育機関に入学する際には、適切な指導を受ける機会が与えられなければならない。その際、指導上必要だと思われる支援策について考える。

内容

- ・新しい障がい観（ICIDHからICFへ）と教育
- ・発達障がいとは（高機能広汎性発達障がい、注意欠陥多動性障がい、学習障がい等、知的な遅れはないが、発達に偏りをもっている人たち）
- ・発達障害者支援法と大学教育について（平成17年に施行された発達障害者支援法）

▶参考資料

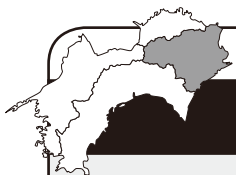
高等教育のユニバーサルデザイン化 佐野真理子編 大学教育出版
発達障害の子どものユニークさを伸ばすテクノロジー 中邑賢龍 中央法規
障害のある学生を支える ボニー・M・ホッジ 文理閣

▶受講者の声(アンケートなどから)

- 障害を持つ人の具体例を聞いたことで、その人の持つ世界を知ることができ、理解していくきっかけとなりました。
- 発達障害の学生さんへの接し方、気をつける事など具体的に話され参考になりました。

と、そのなかで触れられている大学教育について、特別支援教育との関連も含めて)

- ・どのように教育していく必要があるのか（二つの問題等、社会の抱える問題と発達障がい、教育機関としての役割）
- ・セルフエスティームを高める支援とは（学生の自己効力感等を高めるためにどのような支援が考えられるのかを考える）
- ・他大学での取り組み等は（障がいのある学生たちに対して先進的な取り組みを実施している大学を紹介し、その一部の取り組みについても紹介する）



プログラム番号 T-002

ティーチング・ポートフォリオ入門

FD

主な対象

教員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

秦敬治（愛媛大学教育企画室）

日時

12月上旬

場所

徳島大学大学開放実践センター
3階インテリジェントラボ

受講定員

20名

主催

徳島大学大学教育委員会・FD
専門委員会、SPOD

メー切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

徳島大学大学開放実践センター
E-mail: t-spod@cue.
tokushima-u.ac.jp

目標

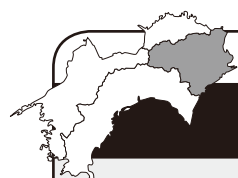
- ・ティーチング・ポートフォリオとは何かを理解する。
- ・ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- ・ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。

内容

2011年12月以降にSPOD加盟校（東四国：香川県、徳島県）で予定しているティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップへ向けて、講演の形で、ティーチング・ポートフォリオについて学ぶ。ティーチング・ポートフォリオとは何か、教育改善や教育業績評価にいかなる点で役立つかといった必要性和有効性を理解する。また、ティーチング・ポートフォリオ作成の事前準備として、作成の要点と手順について学ぶ。

▶参考資料

TP完成サンプル



プログラム番号 T-010

ティーチング・ポートフォリオ入門

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD全加盟校 (技能職養成課程を持つ教育機関に推奨)

*目標

右記参照

*講師

香川順子, ほか (徳島大学大学開放実践センター)

*日時

7月後半

*場所

徳島工業短期大学会議室, または講義室

*受講定員

約25 ~ 40名

*主催

徳島工業短期大学, SPOD

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ

徳島工業短期大学事務局
E-mail : k.tsutsui@tokuco.ac.jp

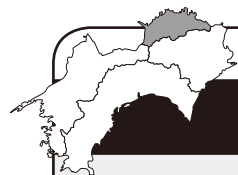
目標

ティーチング・ポートフォリオとは何かを理解する。特にその必要性和有効性, 内容構成, 作成の要点と手順を理解する。

内容

講義, 実習形式の授業改善を目指し, ティーチング・ポートフォリオ導入の事前準備として今回の研修を実施する。技能系・工学系の経験は多いが事務系作業を苦手とする教員を対象に, 教育記録を残す手法を開示する。

▶参考資料

参考URL <http://www.teaching-portfolio-net.jp/>

プログラム番号 K-016

ティーチング・ポートフォリオ入門

FD

*主な対象

教員, 教務または自己点検・評価を担当する職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

秦敬治 (愛媛大学教育企画室)

*日時

6月25日(土) 9:30~11:30

*場所

香川短期大学5階講義室

*受講定員

10名 (本学教職員を除く)

*主催

香川短期大学, SPOD

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ

香川短期大学FD委員会
E-mail : hino@kjc.ac.jp

目標

- ・ティーチング・ポートフォリオとは何かについて理解する。
- ・ティーチング・ポートフォリオ作成の意義と, 作成のための手順について理解し, 作成の見通しを持てるようになる。

内容

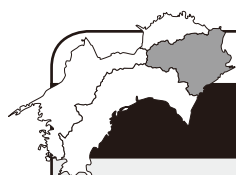
- ・ティーチング・ポートフォリオとは何か
- ・ティーチング・ポートフォリオ作成の歴史的背景
- ・業績評価とティーチング・ポートフォリオ
- ・ティーチング・ポートフォリオを作成すると何がかわるか (実践例を含む)
- ・ティーチング・ポートフォリオ作成の実際

▶参考資料

大学評価・学位授与機構「日本におけるティーチング・ポートフォリオの可能性と課題」ーワークショップから得られた知見と展望ー

▶受講者の声

- 自分の教育に関する多くの資料を用意して, 限られた長さにとめる作業は大変だったが, これまでの自分の教育業績を振り返るよい機会になると同時に, これから向かうべき方向も見えてきた。
- ティーチング・ポートフォリオ作成が本当に自分にとって必要なものかどうかを, 見極められた。



プログラム番号 T-003

ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ (東四国対象)

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD加盟校
(東四国：徳島県、香川県)

*目標

右記参照

*講師

香川順子(徳島大学大学開放実践センター)、秦敬治(愛媛大学教育企画室)ほか

*日時

12月～3月中(3日間)

*場所

未定

*受講定員

20名

*主催

徳島大学大学教育委員会・FD専門委員会

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

徳島大学大学開放実践センター
E-mail: t-spod@cue.
tokushima-u.ac.jp

目標

- ・ティーチング・ポートフォリオとは何かを理解する。
- ・ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- ・ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。
- ・ティーチング・ポートフォリオを作成する。

▶参考資料

TP完成サンプル

内容

3日間を通しての参加となります。
メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

<1日目>

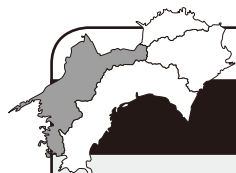
1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. TP作成作業

<2日目>

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
- (夜) 情報交換会(任意)

<3日目>

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式



プログラム番号 I-013

ティーチング・ポートフォリオ開発ワークショップ (西四国対象)

FD

*主な対象

教員

*対象校

SPOD加盟校
(西四国：愛媛県、高知県)

*目標

右記参照

*講師

秦敬治(愛媛大学教育企画室)ほか

*日時

9月中(3日間)

*場所

愛媛大学愛大ミューズ

*受講定員

20名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

- ・ティーチング・ポートフォリオとは何かを理解する。
- ・ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について知る。
- ・ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を理解する。
- ・ティーチング・ポートフォリオを作成する。

▶参考資料

TP完成サンプル

内容

3日間を通しての参加となります。
メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

<1日目> (予定)

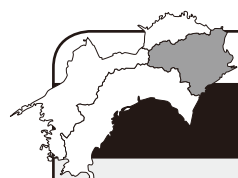
1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. TP作成作業

<2日目>

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
- (夜) 情報交換会(任意)

<3日目>

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式



プログラム番号 I-014, T-012, T-013

高専ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

FD

*主な対象

教員 (教育歴5年以上を目安とする), 教育力向上を目指す教員

*対象校

SPOD全加盟校 (高専のみ)

*目標

右記参照

*講師

松本高志 (阿南工業高等専門学校), 秦敬治 (愛媛大学教育企画室) ほか

*日時

9月中(3日間),
12月下旬(3日間),
3月下旬(3日間)

*場所

12月下旬・3月下旬: 阿南工業高等専門学校会議室, セミナー室 (管理棟3階)
9月: 愛媛大学愛大ミューズ

*受講定員

40名

*主催

阿南工業高等専門学校・FD高度化推進室

*メー

要問い合わせ

*申込先・問合せ

阿南工業高等専門学校 総務課
E-mail: s-hosasoumu@
anan-nct.ac.jp

目標

ティーチング・ポートフォリオ (以下, 「TP」という。) を用いて教員による主体的な教育力向上を目指します。TPは自己省察によって, 教育業績を整理するのみならず, 教員が抱えている教育への情熱を振り返り, その思いを授業改善, さらに教育力向上へ結びつける教員の意識改革 (主体性) を重視するものです。

TP作成者 (ワークショップ参加者) は次回メンター (助言者) として参加し, 他者をメンタリングすることにより更なる教育効果が上がり, TP作成者の増加のみならず, メンター養成によって相乗効果が生まれることが期待されます。

内容 3日間を通しての参加となります。

<1日目> 12:00開始 17:00終了 (予定)

1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. 第1回個人ミーティング
5. TP作成作業

<2日目> 9:00開始 17:00終了 (予定)

1. TP作成作業
2. 第2回個人ミーティング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
- (夜) 情報交流会 (任意)

<3日目> 9:00開始 16:30終了 (予定)

1. TP作成作業
2. 第3回個人ミーティング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式

▶研修風景



▶準備物

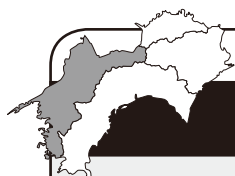
事前に課題 (スタートアップシート) を作成・提出していただきます。

▶参考資料

『大学教育を変える教育業績記録 ティーチング・ポートフォリオ作成の手引』ピーター・セルディン/著 大学評価・学位授与機構/監訳 栗田佳代子/訳 (玉川大学出版)

▶受講者の声

- 自分がやりたい教育というものが整理できた。
- スケジュール的には厳しかったのですが, 自らの教育経験の統括を行えたという意味から大変有意義であったと思います。これ程長い時間をかけて自らの教育について考えさせられた時は, 今までありませんでした。



プログラム番号 I-015

ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ FD

主な対象

教員（TP作成後1年を経過している教員が望ましい）

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

秦敬治（愛媛大学教育企画室）ほか

日時

9月16日（金）

場所

愛媛大学愛大ミュージズ

受講定員

20名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

その他

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail：info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

ティーチング・ポートフォリオを更新する。

内容

ティーチング・ポートフォリオの作成に終わりはありません。今回はティーチング・ポートフォリオの更新を目的としてワークショップを実施し、参加者と一緒に、より良いティーチング・ポートフォリオの作成を行います。

▶事前準備

事前にご自身のティーチング・ポートフォリオを読み返し、更新が必要な箇所の検討を付けておく。更新に必要なエビデンスを準備する。



FD/SDプログラム

(教職員対象)

プログラム番号 I-016

ループリックスを作ろう！—成績評価の厳密化と効率化のために—



FD/SD

*主な対象

成績評価の厳密化と効率化をはかりたい教員、ループリックスを作成したい教員、教育・学習評価に関心のある教職員、人事評価に関心のある教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤浩章(愛媛大学教育企画室)
井上敏憲(愛媛大学アドミッションセンター)

*日時

9月9日(金)13:00~15:00

*場所

愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）、SPOD

*メロ

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. ループリックス評価のメリットを説明することができる。
2. 自らの授業で活用できるループリックスを作成する。

※ループリックスとは、教育・学習成果の評価の厳密化と効率化を進めるために使われる評価ツールです。本講座ではその作成手続きと様々な事例を紹介しながら、時間内に自らの授業で活用できるループリックスを作成します。作成したループリックスは、ループリックスバンクを通して他者と共有することができます。

▶参考資料

Dannelle D. Stevens 2004, *Introduction to Rubrics: An Assessment Tool to Save Grading Time, Convey Effective Feedback and Promote Student Learning*, Stylus Publishing, U.S. (購入の必要なし)

ループリックス評価の例			
項目	レベルA	レベルB	レベルC
課題	課題の目的を明確に説明し、目的が達成できていることが確認できる。	課題の目的が明確に説明されているが、目的が達成できていることが確認できない。	課題の目的が明確に説明されていない。
評価	評価の観点から、評価の観点から評価が行われている。	評価の観点から、評価の観点から評価が行われているが、評価の観点から評価が行われていない。	評価の観点から、評価の観点から評価が行われていない。
評価	評価の観点から、評価の観点から評価が行われている。	評価の観点から、評価の観点から評価が行われているが、評価の観点から評価が行われていない。	評価の観点から、評価の観点から評価が行われていない。

▶準備物について

各自パソコンを持参してください。貸出可能ですので、愛媛大学教育企画室までお問い合わせください（数量限定）。

内容

1. ループリックスとは何か？
2. なぜループリックスを使うのか？
3. ループリックスをどうやって作成するか？
ループリックス作成の4段階
第1段階：振り返り（リフレクティング）
第2段階：リスト作成
第3段階：グループ化とラベリング
第4段階：適用
4. ループリックス作成（個人ワーク）
5. ループリックスブラッシュアップ（グループワーク）
6. ループリックスを使って採点する

▶受講者の声

- ループリックスとは、どのようなものであるべきか、深く理解することができました。学生・教員双方のためのループリックス作りを行うことで、学習意欲を引き出せるのではないかと思います。
- これまでレポートや授業記録を提出させた後、教員コメントを書くのに手間・時間をかけていたので、今後は効率よく評価できると思います。また、授業態度の評価基準もきちんとしたものではなかったため、学生との合意でやれるのが双方のメリットになると思います。

プログラム番号 I-017

学習動機を高める授業

FD/SD

*主な対象

学習者の動機を高めたい教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

佐藤浩章(愛媛大学教育企画室)

*日時

9月6日(火)13:00~17:00

*場所

愛大ミュージアム1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）、SPOD

*メロ

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. 学習動機が低い学習者の心理状況を説明することができる。
2. 主要な動機付け理論を説明できる。
3. 様々な質問技法を知り、自らの授業で活用することができる。
4. 効果的なフィードバック技法を知り、自らの授業で活用することができる。
5. 様々な教室管理の手法を知り、自らの授業で活用することができる。
6. 自らのインストラクションの強みと弱みを知る。

▶参考資料



▶受講者の声

- 授業を振り返る大変良い機会となりました。
- グラウンディングの必要性、学習段階モデルにおける対立段階の重要性がよく分かった。
- 授業をよくしたいと思っていても、具体的に何をしたらいいかわからなかったが、学生への質問の仕方でもオープン・クローズドQでそれぞれ特徴があるなど具体的にお話いただいたので、何に注意したら良いかわかりました。

プログラム番号 I-018

授業の双方向性を高めるクリッカー入門編

FD/SD

*主な対象

教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

山内一祥(佐賀大学高等教育開発センター)

*日時

8月26日(金)15:30~17:30

*場所

愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

20名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）、SPOD

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ先

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

- ・クリッカーの使い方を説明することができる。
- ・クリッカーを用いた授業や学会発表の方法について述べることができる。

内容

1. イントロダクション
 - ・自己紹介
 - ・クリッカーとは？
 - ・今日の目標、内容
2. クリッカーの使い方
 - ・インストール
 - ・スライドの作成
 - ・プレゼンテーション
 - ・レポートの作成

▶参考資料



プログラム番号 K-010

クリッカーで教育・研究が変わる！

FD/SD

*主な対象

教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

真鍋芳樹（香川大学・アドミッションセンター）

*日時

5月16日(月)13:30~15:30

*場所

生涯学習教育研究センター第1講義室（研究交流棟6階）

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ先

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: sokoyot@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

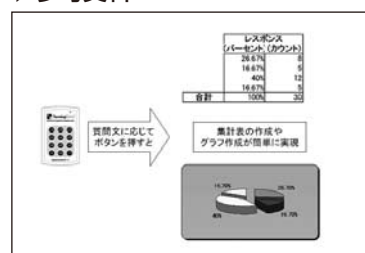
目標

- ・クリッカー&制御ソフトの使用方法を習得し、実際に使用できるようになる。
- ・クリッカーを用いた教育方法ならびに研究方法の展開を考えることができる。

内容

- クリッカーを使用すると、簡単なテストやアンケート調査などをリアルタイムに行うことができ、今までの授業の改善や研究推進に役立てることが可能になります。
1. クリッカーを使用した事例紹介
 2. クリッカー制御ソフト（Turning Point）の使用
- クリッカーを使うには、制御ソフトとMicrosoft社のPowerPointが必要です
WindowsでもMacintoshでも使用できます
- ・ソフト（インターネット経由で取得、無料）のインストール
 - ・集計用スライドの作成方法
 - ・プレゼンテーション実行方法

▶参考資料



▶受講者の声(アンケートなどから)

- ・自分の授業の進め方の具体的なイメージが広がった。
- ・実践的内容でよかった。
- ・クリッカーの具体的な機能について理解した。

プログラム番号 K-011

教材のホームページ化について - どうすればドキュメントをHP化できるか -

FD/SD

*主な対象

教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

今井慈郎（香川大学総合情報センター）

*日時

8月4日(木) 13:30～15:30

*場所

生涯学習教育研究センター第1講義室（研究交流棟6階）

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
E-mail: sokyoyot@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

目標

具体的な事例を通じて、教材（含むマルチメディア情報）のホームページ化に挑戦。

内容

(1) 平易な文書のホームページ化

①HTML文書のテンプレート提示：簡単タグ紹介、ハイパリンク、箇条書き、表形式等の解説

②お手軽ホームページ作成の体験（受講者全員）

(2) HTMLファイルの確認と代表者による試験的ホームページ公開

①作成したお手軽ホームページの手元PCによる閲覧（受講者全員）

②WWWサーバへのHTMLファイル・アップロードの手順確認（代表者数名による実演を含む）

(3) マルチメディア情報を含む教材のホームページ化の実習

①画像・音声・動画像などを含む文書ファイルの公開

②ファイル・アップロードと情報公開（代表者数名による実演を含む）

(4) セキュリティ対策の必要性について

①一般的な説明・・・セキュリティ対策への理解（受講者全員）

②事例紹介：閲覧の学内限定、パスワードによる閲覧制約の設定等を含む

実習等で紹介する手続きの文書化（手順化）と参照可能な情報公開（当該URLの立上げ等）で受講者への利便性を図りたい。

▶参考資料

必要に応じて、講義中に紹介する。できるだけ書籍よりもURL（講義担当者の作成分を含む）を参照する。

▶準備物について

シラバス文書（ファイルあるいは印刷物）などをご持参ください。それを基に受講者ご自身のホームページを作成します。PCをご準備いただければ好都合です。

プログラム番号 Y-009

Webページ作成入門

FD/SD

*主な対象

Web教材を作成したい教員および教員志望学生。画像を使ったWebページを作成・管理する教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

立川明（高知大学総合教育センター）

*日時

9月15日(木) 13:30～16:00

*場所

高知大学共通教育棟3号館1階310教室

*受講定員

30名

*主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

*メー

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ

高知大学学務部学務課
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

目標

Webページを簡単に作成する3つの方法を知る。

メモ帳を使ってHTMLを直接書く方法を知ることにより、タグの意味を理解する。

内容

・レクチャーによる基本的注意点の解説。

・ユニバーサルアクセスについて

・色使いについて

・文字情報の重要性について

・PowerPointを使った実習「自己紹介」、「組織紹介」または教材作成

・PowerPointによる資料作成

・データの保存

・HTMLへの変換

・Word, Excelを使ったHTMLの作成法

・メモ帳を使ったHTMLの書き方ワークショップ

・Moodleへのデータ送信

・プレゼンテーション

・作成したWebページの紹介、工夫、こだわり

・ピア・フィードバック

▶準備物について

2～3ページ程度の自己紹介ページ、組織紹介ページ、または作ってみたい教材等をPowerPointまたは手書きで作成してきてください。受講者は高知大学オンライン学習支援システム（Moodle）への登録が必要。ノートPC必携（貸し出し希望者は事前に連絡）。必ず事前申し込みを！

プログラム番号 K-012

e-Learning事始め -コンテンツ作成からLMS利用の第一歩-

FD/SD

*主な対象

教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

林敏浩 (香川大学総合情報センター)

*日時

8月23日(火) 13:00~17:00

*場所

生涯学習教育研究センター第1講義室 (研究交流棟6階)

*受講定員

50名

*主催

香川大学大学教育開発センター

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ

香川大学教育・学生支援室学修支援グループ
E-mail: sokyoyot@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

目標

e-Learningコンテンツの作成と公開が行えるように, LMS(Learning Management System)であるMoodleの各種機能を理解する。また, e-Learningコンテンツ作成のツールに対する理解を深める。

内容

LMS (Learning Management System) 学習管理システム) であるMoodleを使ってどんなことができるか, パソコンを使用しながら具体的に学んでいく体験型の講座です。本講座は以下のようなストーリーに沿って進めていきます。

STEP1: e-Learning教材を作成しよう。

講義資料として作成しているパワーポイントファイルを元に, フリーのコンテンツ変換ソフトを利用して, e-Learningコンテンツを作成します。

▶準備物について

実際にe-Learningコンテンツ作成を行うため, 以下の要件を満たすノートPCを持参ください (実際に使用されているノートPCが良いと思います)。

- ・Windows XP以降のOSがインストールされていること。
 - ・PowerPoint 2003以降がインストールされていること。
 - ・無線LAN機能があること。
- ※無線LANの接続方法は講義内容に含みませんので事前に接続方法を確認ください。

STEP2: Moodle にログインしよう

Moodleにログインして, e-Learningコンテンツをアップロードする前準備として, 講義のコースを開設します。

STEP3: ファイルをアップしよう

作成したe-LearningコンテンツをMoodleにアップロードします。学生のモードでどのようにe-Learningコンテンツが見えるのが確認します。

STEP4: いろいろな機能を使ってみよう

小テストやレポート (課題) を設定してみます。さらにはフォーラムなどの機能なども利用してみます。

講座の最後に実際の講義での利用を想定して, 講座参加者の方々とディスカッション形式で質疑応答をしてLMSについて理解を深めていく予定です。

- ・ハードディスクに500MB以上の空き容量があること
- ※実際はもう少し小さくても構いませんが, 目安としてお考えください。
- さらに, 音声付きのe-Learningコンテンツを作成しますので, ノートPC接続に必要なマイクをご準備ください。ノートPC内蔵のマイクでも結構です。
- 不明な点は講師の林 (hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp) まで電子メールでお問い合わせください。

プログラム番号 I-019

Adobe Premiere Elementsを使った動画教材作成法

FD/SD

*主な対象

動画の基本編集と各種形式ファイルへの書き出し, DVDへの書き込み方法を知りたい教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

二神透 (愛媛大学総合情報メディアセンター)

*日時

8月30日(火) 13:00~15:00

*場所

総合情報メディアセンター第1 演習室

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点), SPOD

*メー

開講日2週間前, 先着順

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. Premiere Elementsの基本操作の習得
2. 複数動画の編集操作の習得
3. wmv, mpeg, DVDへの動画保存と再生

内容

1. はじめに
2. ソフトの起動
3. 画面説明
 - ・プロジェクトウィンドウ
 - ・モニタウィンドウ
 - ・ランタイムウィンドウ

▶受講者の声

- 授業で, 例えば実験操作を映像にとって学生に示すことに役立てようと思っている。
- 初めて動画の取り込みを経験したので是非講義に試してみたい。

4. 編集

- ・ファイルの貼り付け
- ・ファイルの確認

5. 映像に変化をつける

- ・エフェクトの挿入

6. 録画したビデオの編集

- ・タイトルの編集・保存

7. BGMの挿入

8. 各種形式ファイル書き出し

9. DVDへの書き込み

10. ムービーの再生

▶参考資料



プログラム番号 I-020

パワーポイント2010基本技・便利技

FD/SD

主な対象

パワーポイントの基本から、図形・写真・グラフ・動画の挿入・アニメーションについて学びたい方

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

二神透 (愛媛大学総合情報メディアセンター)

日時

9月2日(金) 13:00~15:00

場所

総合情報メディアセンター演習室1

受講定員

40名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点), SPOD

メー切

開講日2週間前, 先着順

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

1. プレゼンテーションと基本操作の習得
2. 図形・写真・表やグラフの作成・挿入
3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用
4. 各種アニメーションの設定と実行

内容

1. 基本操作編
 - ・効果的なプレゼンとは
 - ・Power Point2010の基本
 - ・スライド作成の基本
2. 図形・写真・表やグラフの作成・挿入
 - ・図形を描こう
 - ・写真の加工
 - ・表を作成しよう
 - ・グラフを作成しよう
 - ・パワーポイントへの挿入

▶受講者の声

- 今まで適当に使っていた機能の効率的な使い方が良く分かった。
- 基本的なものから、とても分かりやすく学べてよかったです。

3. 動画の挿入・ハイパーリンクの活用

- ・ハイパーリンクとは
- ・動画の挿入

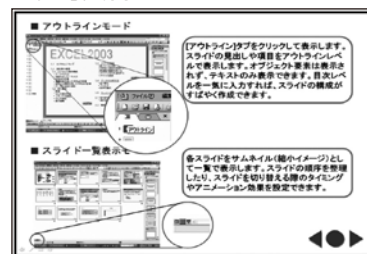
4. 最終調整, 資料準備編

- ・スライドのデザイン
- ・スライドショーの設定
- ・配布資料の作成

5. プレゼンテーション実行編

- ・スライドショー
- ・動作設定ボタンの利用
- ・アニメーション

▶参考資料



プログラム番号 I-021

心理学から見た教室デザイン—学びを促す学習空間づくり—

FD/SD

主な対象

学習環境の改善に関心がある教職員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

城間祥子 (愛媛大学教育企画室), 高橋麻衣 (愛媛大学研究支援部研究支援課)

日時

9月13日(火) 15:30~17:30

場所

愛大ミュージ1階アクティブ・ラーニングスペース2

受講定員

30名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点), SPOD

メー切

開講日2週間前, 先着順

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

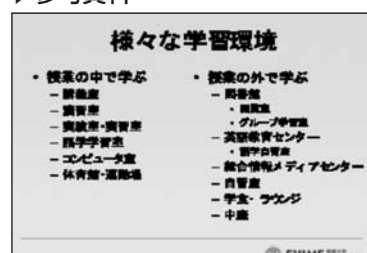
1. 国内外の大学の「学びの場」の事例を通して、多様な学習環境があることを理解する。
2. 目的に応じて学習環境をデザインすることができる。
3. 持続的に学習環境を改善していくための方法を提案することができる。

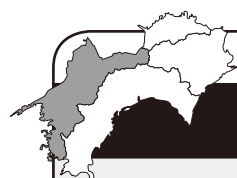
※本講座では、「ヒト (組織)」「コト (活動)」「モノ (道具)」という3つの観点から「教室」をデザインする方法を学びます。講義に特化した従来の教室では満足できない先生方、教室の設置・維持管理に携わる職員の方の参加をお待ちしています。学び意欲が湧いてくる「教室」のカタチを、一緒に考えてみませんか？

内容

1. 「教室」とは？
 - ・教室＝講義室？
2. 愛媛大学における学習空間づくりの事例
 - ・愛大ミュージラウンジ
 - ・アクティブ・ラーニングスペース
3. マギル大学における学習空間づくりの事例
 - ・教室改善プロジェクト
4. 〈ワーク〉「教室」をデザインしよう！

▶参考資料





プログラム番号 1-022

メンタルヘルス研修

FD/SD

主な対象
教員及び課長補佐以上の職員

対象校
SPOD全加盟校

目標
右記参照

講師
外部講師

日時
5月下旬

場所
愛媛大学会議室

受講定員
40名

主催
愛媛大学総務部人事課

メー切
開講日2週間前、先着順

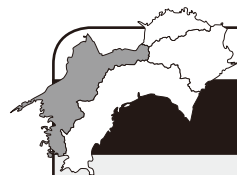
申込先・問合せ
愛媛大学総務部人事課
E-mail : jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

目標

教員及び事務系職員の管理的立場にある者に対し、不調者の早期発見・早期対処方法等についての基礎知識を習得させることにより、学生・教職員の心の健康保持増進を図る。

内容

(案) メンタルヘルスへの対応について



プログラム番号 1-023

人権啓発研修

FD/SD

主な対象
教職員、学生（注）

対象校
SPOD全加盟校（注）ただし、
学生は愛媛大学のみ

目標
右記参照

講師
外部講師

日時
12月中旬

場所
愛媛大学会議室

受講定員
40名

主催
愛媛大学総務部人事課

メー切
開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ
愛媛大学総務部人事課
E-mail : jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

目標

学生及び教職員に対し、人権問題についての正しい認識を養うとともに、人権侵害を防止し、より一層快適な教育環境及び職場環境を整えることを目的とする。

内容

(案) ハラスメントの予防ーセクハラ・パワハラのない大学のためにー



プログラム番号 I-024

高等教育機関における安全衛生

FD/SD

主な対象

教職員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

浜井盟子（愛媛大学医学部安全衛生管理室）、愛媛大学職員他

日時

9月中

場所

未定（愛媛大学内を予定）

受講定員

40名

主催

愛媛大学総務部人事課

その他

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ

愛媛大学総務部人事課
E-mail : jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

目標

1. 高等教育機関の職員として求められる安全衛生についての素養を習得することができる
2. 他機関と課題を共有し意見交換することによって、自機関の安全衛生に係る課題解決が推進される。

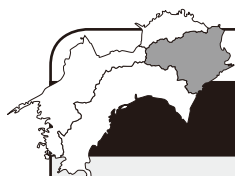
内容

1. 安全衛生の基礎知識
2. 高等教育機関の安全衛生の動向について
3. 愛媛大学の取り組み紹介
4. グループワークによる課題提起及び意見交換



FDer養成プログラム

(ファカルティ・ディベロッパー対象)



プログラム番号 T-004

FDファシリテーター (FD 担当者) 養成研修 (東四国対象)

FDer

*主な対象

各学部においてFDを担当する教員

*対象校

SPOD加盟校
(東四国：香川県、徳島県内)

*目標

右記参照

*講師

川野卓二、宮田政徳、香川順子、
吉田博 (徳島大学大学開放実践
センター)

*日時

6月25日(土)～26日(日)

*場所

独立行政法人国立青少年教育振
興機構「国立淡路青少年交流の
家」(兵庫県南あわじ市)

*受講定員

30名
(開催場所の収容定員による)

*主催

徳島大学 大学教育委員会・F
D専門委員会

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

徳島大学・大学開放実践センター
E-mail: t-spod@cue.
tokushima-u.ac.jp

目標

この研修は一泊二日の合宿形式で行い、各大学でFDを企画・実施する立場にあるFDリーダーを養成するものである。FD担当者として次の三つの目標を達成することを目指している。

1. FD活動の理念と活動計画を理解し、独自のFDプログラムを開発する。
2. FDリーダーとして活動できる能力と資質を体得する。
3. FDリーダー間の仲間づくり、FDネットワークづくりをする。

内容

1日目

- ①オリエンテーション
(研修のねらいと進め方)
- ②アイスブレイク
- ③FD活動の理解
・FDとは何か?
・徳島大学全学FD推進プログラムの理解
- ④FDファシリテーターの役割とFD実践
・FDファシリテーターとは?
・各部局FDの紹介とその視点
- ⑤各部局FDの課題把握(ワーク)
- ⑥FDプログラムの企画・立案(ワーク)
〈夜〉交流会

2日目

- ①プログラム評価の仕方(講義・ワーク)
- ②FDプログラムの仕上げ(ワーク)
- ③FDプログラムの発表と相互交流
- ④研修のまとめ(感想・アンケート)

(備考)

※ワークの部分は、グループでのワークを中心に実施していきます。

※二日間通しの参加となります。一日だけの参加はできません。

※徳島大学～会場間の移動は、往復借り上げバスとなります。

▶研修風景 (2010年度FDファシリテーター養成研修より)



▶受講者の声 (2010年度FDファシリテーター養成研修アンケートより)

- アイスブレイクで心が開放された。
- 他大学、他学部の先生方との交流で様々な問題を共有できた。
- FDへの理解が深まった。
- 必要なFDプログラムを作成することができた。

▶参考資料

FD担当者必携マニュアル
第1巻「FDプログラムの開発・
実施・評価」

プログラム番号 I-025

FDファシリテーター (FD 担当者) 養成研修 (西四国対象)

FDer

*主な対象

全学・各学部・学科等においてFDを担当して2年未満の教職員(学部FD委員など)
(全学のFDを2年以上担当されている方は、より応用的な内容を学ぶ、ファカルティ・ディベロッパー養成講座への参加も可能です(54ページ参照)。内容の違い等については愛媛大学教育企画室にお問い合わせください。)

*対象校

SPOD加盟校(西四国:愛媛県、高知県)

*目標

右記参照

*講師

小林直人、佐藤浩章、城間祥子、大竹奈津子(愛媛大学教育企画室)

*日時

10月8日(土)~9日(日)

*場所

愛媛大学愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

*受講定員

40名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)、SPOD

*共催

日本高等教育開発協会(JAED)

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

各学部でFDを企画・実施する立場にあるFDファシリテーター(学部FD担当者)に求められる知識・技能・態度を育成することを目的とし、以下の目標を設定しています。

1. 日本におけるFDの定義と歴史を説明できる。
2. FD担当者に求められる業務を説明できる。
3. 所属組織のFDニーズを説明できる。
4. 成人学習者の特質を説明できる。
5. 様々なFD手法の中から、所属組織に見合ったものを選択できる。
6. 所属組織のFDニーズに対応したFDプログラムを開発することができる。
7. 所属組織のFDを評価する適切な方法を定めることができる。
8. 他組織のFDの現状について説明できる。

▶参考資料

『FD担当者必携マニュアル第1巻』(参加者には当日無料で配布されます)

内容

1日目「FD概論」

アイスブレイキング

1. FDの定義と歴史
 - ・ FDの定義
 - ・ FDの歴史と課題
 - ・ FDを普及させた要因
2. FDの種類と問題点
 - ・ 能力開発の種類
 - ・ FDの種類
 - ・ 従来のFDの問題点
3. FDの体系化
4. FD担当者の業務
 - ・ FD担当者に求められる役割
 - ・ FD実施組織の機能
5. FD参加者の動機
6. 課題の提示

2日目「プログラムの立案と実施」

1. ニーズ把握の意義
 2. ニーズ把握の方法
 3. プログラム作成の流れ
 4. 成人学習者の特徴
 5. 目的と目標の設定
 6. 評価方法の設定
 7. 研修技法の選定
 8. 研修日程と会場の選定
- 振り返り

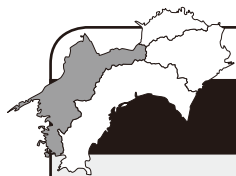


*二日間通しの参加となります。一日だけの参加はできません。

*内容については、参加者のニーズにより変更することがあります。

▶受講者の声

- 具体的なプログラムを作成できたので実施できそうです。また、他大学・教員のとりくみを知ることができよかったです。
- しなければならぬから…という理由で、毎年同ようなFDを企画してきたが、今回受講して、まず本学のFDの定義を明確にし、教職員のニーズにあったFDを企画するべきだと思いました。目的・目標を設定した上で、できるだけ自学で講師を調達した意味のあるFDが企画できる気がしてきました。
- ターゲットの絞り込みによりプログラムが柔軟に組めることが、他グループ発表でよくわかりました。



プログラム番号 I-026

ファカルティ・ディベロッパー養成研修

FDer

主な対象

全学において2年以上FDを担当している教職員（全学FD委員、大学教育センター等教職員など）

（FDを担当して2年未満の教職員の方は、より基礎的な内容を学ぶ、FDファシリテーター養成講座への参加を推奨します（53ページ参照）。学部等に所属している方も参加可能な場合があります。愛媛大学教育企画室にお問い合わせください。）

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

小林直人、佐藤浩章、秦敬治、山田剛史、城間祥子、大竹奈津子（愛媛大学教育企画室）

日時

11月11日(金)～13日(日)

場所

キャンパス・イノベーションセンター（東京・田町）

受講定員

40名

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

共催

日本高等教育開発協会（JAED）

その他

要問い合わせ

申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

目標

全学でFDを企画・実施する立場にあるファカルティ・ディベロッパー（FDer）に求められる知識・技能・態度を育成することを目的とし、以下の目標を設定しています。

1. 自らのFD活動を振り返り、強みと課題を抽出することができる。
2. 他者からの助言を踏まえて、自らのFD活動の課題の解決策を見出すことができる。
3. ミクロ・レベルFDの優良事例を自らのFD活動に応用できる。
4. ミドル・レベルFDの優良事例を自らのFD活動に応用できる。
5. マクロ・レベルFDの優良事例を自らのFD活動に応用できる。

内容

1日目 13:00～17:00

「FD活動の振り返りによる現状分析とFDに関する政策動向」

- ・FDマップとFD活動分析シートを活用した振り返り
- ・課題解決のためのグループ・ディスカッション

2日目 9:00～17:00

「自大学でFDを実践するためのワークショップ」

- ・ワークショップ1：公開授業と授業コンサルティングの技法（ミクロ・レベルのFD）
- ・ワークショップ2：3つのポリシー策定とカリキュラム評価（ミドル・レベルのFD）

3日目 9:00～12:30

「自大学でFDを実践するためのワークショップ」

- ・ワークショップ1・2の報告
- ・ワークショップ3：管理職のFDプログラム開発（マクロ・レベルFD）
- ・振り返りとアクションプランの発表

（備考）

※3日間通しの参加となります。

※内容については、参加者のニーズにより変更することがあります。

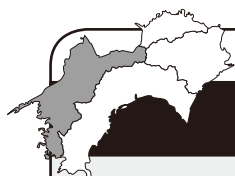
詳しい内容については、

SPODホームページ（<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>）でご確認下さい。



SDプログラム

(職員対象)



プログラム番号 I-028

大学人、社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)

SD

主な対象

係員相当級の職員

対象校

SPOD全加盟校

目標

・高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる

講師

外部講師，SPOD内講師

日時

10月2泊3日

場所

愛媛大学会議室

受講定員

各30名

主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点），SPOD

メモ

要問い合わせ

申込先・問合先

愛媛大学総務部人事課
E-mail : jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

内容

大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）のうち、5つの研修科目を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

■ビジネスマナー入門編

目標

- ・ビジネスマナーの基本を実践することができる
- ・一般的なビジネス文書を作成することができる
- ・議事録を作成することができる
- ・基本的な電話対応、接客対応を行うことができる

内容

- ・ビジネス文書とは ～基礎知識
- ・ビジネス文書作成時のポイント
- ・文書作成スキルを向上させるヒント
- ・議事録作成のポイント
- ・ビジネスマナーの基本
- ・来客対応・訪問のマナー
- ・電話対応
- ・「ホウ・レン・ソウ」の重要性

■コミュニケーション入門

目標

- ・傾聴することができる
- ・周囲の者と積極的に会話することができる
- ・上司、同僚に相談することができる

内容

- ・コミュニケーションのスタートライン
- ・職場のコミュニケーション～周囲の気持ちを理解する
- ・「聴く」スキル＝「傾聴力」のポイント
- ・「訊く」スキル＝「質問力」のポイント
- ・言いたいことをわかりやすく伝えるスキル



■プレゼンテーション入門***目標***

- ・相手に分かりやすい資料を作成することができる
- ・相手に分かりやすい説明をすることができる

内容

- ・プレゼンテーションの基礎
- ・誰でも簡単にプレゼンテーションを成功させるコツ
- ・プレゼンテーション資料の作成
- ・分かりやすい話しの組み立て方
- ・分かりやすい話し方
- ・「ヒアリング」スキルとは？

■職員キャリア形成入門***内容***

- ・自分のキャリアを話すことができる
- ・自分のキャリアプランニングを作成することができる
- ・自己管理を行うことができる

内容

- ・キャリアとは
- ・個人の特性を把握する
- ・これからを考える ～この2年、10年を主体的に生きる

■リーダーシップ入門***目標***

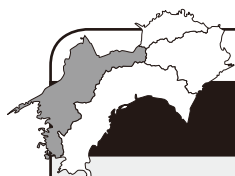
- ・リーダーシップ（必要性、スタイル等）について述べることができる
- ・フォロアーシップ（必要性、手法等）について述べることができる
- ・自己の仕事レベルでリーダーシップを発揮することができる
- ・自己の仕事レベルでフォロアーシップを発揮することができる

内容

- ・リーダーシップとは
- ・リーダーシップを発揮するための仕事力
- ・リーダーシップを発揮するための人間力

▶受講者の声

- ビジネスマナーや、文書作成、プレゼンテーションなど、実務を想像しながら受講することができ、明日から改善できる点がわかって良かった。
- 他大学の人と交流する良い機会になり、また、社会人としての基礎を基本から学ぶことができ、大変勉強になった。



プログラム番号 I-029

大学人、社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅡ)

SD

*主な対象

係長、主任相当級の職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

外部講師、SPOD内講師

*日時

9月中1泊2日

*場所

愛媛大学会議室

*受講定員

各30名

*主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点）、SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

愛媛大学総務部人事課
E-mail: jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

目標

・高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる

内容

大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）のうち、3つの研修科目を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

■メンター入門

目標

- ・メンター、メンタリング（必要性、手法等）について述べることができる
- ・メンティーとの関係を構築することができる
- ・メンティーに仕事に関するメンタリングを行うことができる
- ・メンティーに人間的成長をもたらすことができる
- ・メンティーに自己省察を促すことができる
- ・部下の健康管理（メンタルヘルスも含む）に配慮することができる

内容

- ・メンターとは
- ・よいメンターになるために
- ・メンタリングのポイント～相談を受け入れる～
- ・メンターに必要なコミュニケーション力
- ・関係作りのコミュニケーション
- ・メンタルヘルスの重要性
- ・実践ケーススタディ～こんな時どうする？～

■ミーティング運営

目標

- ・会議の事前準備、時間管理等の重要性を説明することができる
- ・メンバーの意見を引き出す雰囲気をつくることができる
- ・議論の流れをコントロールすることができる
- ・意見の対立を処理することができる
- ・会議の目的に合わせて結論を出すことができる

内容

- ・ファシリテーションとは
- ・ファシリテーターに求められるスキル
- ・場を作るスキルのポイント
- ・議論をリードするスキル
- ・問題解決・合意形成スキル
- ・ファシリテーターの実践力～会議シュミレーション～



■OJT実践

目標

- ・OJTの意義について説明することができる
- ・コンピテンシー、コーチングについての概要を説明することができる
- ・コンピテンシーの創出を行うことができる
- ・コーチング技法を使うことができる

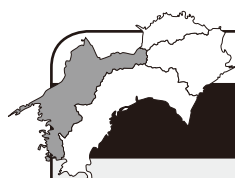
内容

- ・OJTとは
- ・OJTの進め方
- ・コーチングを用いたコミュニケーションスキル
- ・コーチング実践演習



▶受講者の声

- 独学では難しい内容を丁寧に講義してもらえた。
- 座学だけでなくワークがあったため、自分たちの気づきがあった。



プログラム番号 I-030

大学人、社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ)

SD

*主な対象

課長，課長補佐相当級の職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

外部講師，SPOD内講師

*日時

7月中1泊2日

*場所

愛媛大学会議室

*受講定員

各30名

*主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点），SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

愛媛大学総務部人事課
E-mail : jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

目標

・高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することができる

内容

大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅢ）のうち，2つの研修科目を実施する。（原則として全部受講とするが，部分受講も可。）

■高等教育経営

目標

- ・高等教育政策の背景や内容を述べることができる
- ・国内外の高等教育制度や実情を述べることができる
- ・学生を取り巻く諸問題や実態に応じた対応を行うことができる
- ・社会の高等教育機関へのニーズに応じた対応を行うことができる
- ・学校経営の中・長期計画に参画することができる

内容

詳しい内容については，問い合わせ先にお問い合わせください。

詳細は決まり次第，SPODホームページ（<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>）に掲載しますので，ご参照ください

■メンター養成実践

目標

- ・メンター，メンタリングの定義を説明することができる
- ・メンティーとの良好な関係作りを指導することができる
- ・仕事に関するメンタリングの手法について指導することができる
- ・人間的成長をもたらすメンタリングの手法について指導することができる
- ・メンティーの自己省察を促す手法について指導することができる

内容

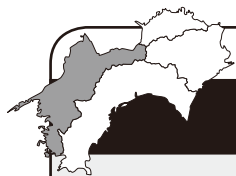
詳しい内容については，問い合わせ先にお問い合わせください。

詳細は決まり次第，SPODホームページ（<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>）に掲載しますので，ご参照ください。

▶受講者の声

- 他大学の方との交流や情報交換ができた。
- 管理職に求められる能力及び知識の習得ができた。





プログラム番号 I-031

学務系職員養成プログラム(レベルI-1)

SD

*主な対象

現在、学務系業務を担当している係員相当級の職員
今後、学務系業務に携わる意欲のある係員相当級の職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

高等教育機関の学務系業務担当職員として求められる専門的な素養を習得することができる

*講師

SPOD内講師

*日時

7月中旬1泊2日

*場所

愛媛大学会議室

*受講定員

各30名

*主催

SPOD、愛媛大学（教職員能力開発拠点）

*メモ

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育企画課
E-mail: spod@stu.ehime-u.ac.jp

内容

学務系職員養成プログラム（レベルI、主に学生支援）のうち、6つの研修科目を実施する。（原則として全部受講とするが、部分受講も可。）

■学生支援概論

目標

- ・学生支援業務の概要を説明することができる。
- ・学生対応にかかる現状・問題点を説明することができる。

内容

- ・学生支援業務の現状とその問題点
- ・学生支援業務をするにあたって担当職員に必要なこと

■学生相談入門

目標

- ・学生生活実態に関する現状を説明することができる。
- ・学生からの相談、要望に対し適切な対応することができる。

内容

- ・学生の現状と主な相談内容
- ・学生相談を適切に行うためのコツ

■対学生コミュニケーション入門

目標

- ・学生が話した内容を的確に述べることができる。
- ・学生のお手本となる言動をとることができる。

内容

- ・学生と上手にコミュニケーションをとるために必要なこと
- ・窓口対応の基本

■学生危機管理対応入門

目標

- ・学生生活における危険性を説明することができる。
- ・事件、事故、災害発生時にマニュアルの沿った対応をすることができる。

内容

- ・学生生活に潜む危険性とその防止法
- ・学生危機管理の種類とその対応方法

■課外活動支援入門

目標

- ・課外活動に関する一連の手続きを説明することができる。

内容

- ・課外活動に関する手続き
- ・課外活動支援担当職員に必要なこと

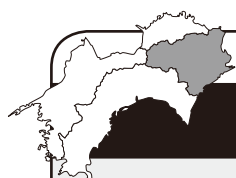
■キャリア支援入門

目標

- ・キャリア教育の内容・必要性を説明することができる。
- ・インターンシップ制度の内容と効果を説明することができる。

内容

- ・学生へのキャリア教育の必要性
- ・インターンシップ制度が学生に与える効果



プログラム番号 T-005

学務系職員養成プログラム(レベルⅠ-2)

SD

*主な対象

現在、学務系業務を担当している係員相当級の職員
今後、学務系業務に携わる意欲のある係員相当級の職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

高等教育機関の学務系業務担当職員として求められる専門的な素養を習得することができる

*講師

SPOD内講師

*日時

11月中旬1泊2日

*場所

徳島大学会議室

*受講定員

30名

*主催

SPOD

*協力校

徳島大学

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

愛媛大学教育企画課
E-mail: spod@stu.ehime-u.ac.jp

内容

学務系職員養成プログラム（レベルⅠ，主に教務，入試）のうち，5つの研修科目を実施する。（原則として全部受講とするが，部分受講も可。）

■高等教育基礎論

目標

・高等教育施策について説明することができる。

内容

・高等教育施策の現状と問題点
・教務担当職員に必要な高等教育施策の基礎知識

■FD概論

目標

・大学教育におけるFDの取り組みを説明することができる。
・職員がFDに関わる必要性を説明することができる。

内容

・FDに関する取り組みの現状と問題点
・職員がFDに関わるためのコツ

■入試情報調査論

目標

・入試に関するニーズとデータを収集することができる。
・入試成績と入学後の成績等の情報を収集することができる。

内容

・入試・広報担当職員の基礎知識
・入試情報等の利活用

■教職協働入門

目標

・教員と日常的に情報交換を行うことができる。
・教員の要望に対して適切に対応することができる。

内容

・教職協働の必要性
・教務担当職員の教職協働の可能性

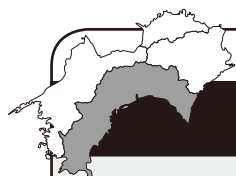
■危機管理入門

目標

・教務に関する危機管理マニュアルを説明することができる。
・教務に関する危機管理マニュアルにそって行動することができる。

内容

・教務事務に潜む危険性とその防止法
・教務関係危機管理の種類とその対処方法



プログラム番号 K-013, I-035, T-006, Y-010

次世代リーダー養成プログラム

SD

*主な対象

- 以下の条件を満たす者。
- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・次世代リーダー養成研修受講希望者は、スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出すること。
- ・専門職養成プログラム（共通教育・専門教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

外部講師、SPOD内講師

*日時

第1回6月9日(木)～11日(土)
 第2回8月4日(木)～6日(土)
 第3回11月24日(木)～26日(土)
 第4回1月19日(木)～21日(土)

*場所

第1回(香川 高松テルサ)
 第2回(愛媛大学 聖カタリナ大学)
 第3回(徳島大学)
 第4回(高知大学)

*受講定員

15名

*主催

SPOD

*協力校

高知大学

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学総務部人事課
 E-mail: jinshoku@stu.
 ehime-u.ac.jp

目的

将来、事務職員がトップリーダー（経営者・管理者）として、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要なものとなる

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要なものとなる、

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

内容

1年目

第1回 1日目

- ・オリエンテーション
- ・アイスブレイク
- ・高等教育論

※オリエンテーションの前に個人面談を行う。

2日目

- ・高等教育史
- ・自大学プレゼンテーションⅠ

3日目

- ・リーダーシップ論&実践Ⅰ

第2回

1日目

- ・高等教育政策・行政論
- ・トップリーダーとの対談Ⅰ

2日目

- ・対談の内容・企画の振り返りⅠ
- ・教育関係法
- ・レクリエーション実践Ⅰ

3日目

- ・教育財政管理・戦略論
- ・トップリーダー能力分析演習 演習テーマ決定

第3回

1日目

- ・経営管理・戦略

- ・教職協働演習Ⅰ
- 2日目**
 - ・大学の構成員等を巻き込んだプロジェクトの構築（チーム作業）
- 3日目**
 - ・チームの成果発表&批評Ⅰ
 - ・トップリーダー能力分析演習質疑応答
- 第4回 1日目～3日目**
 - ・トップリーダー能力分析演習発表

2年目

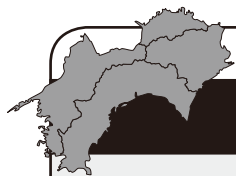
- 第5回 1日目**
 - ・メンタリング実践Ⅰ（一年目の受講生に対して）
 - ・危機管理論&実践
- 2日目**
 - ・修了プロジェクトテーマ決定・計画策定
 - ・自大学プレゼンテーションⅡ（一年目の受講生の批評）
- 3日目**
 - ・教職協働演習Ⅱ（「教職協働演習」プログラム開発）
 - ・ピア・コーチング
 - ・フォローアッププログラム開発
- 第6回 1日目**
 - ・修了プロジェクト中間発表
 - ・トップリーダーとの対談Ⅱ
- 2日目**
 - ・対談の内容・企画の振り返りⅡ
 - ・リーダーシップ論&実践Ⅱ
 - ・レクリエーション実践Ⅱ
- 3日目**
 - ・フォローアッププログラム
- 第7回 1日目**
 - ・SD論
 - ・教職協働演習Ⅲ
- 2日目**
 - ・メンタリング実践Ⅱ（一年目受講生に対して）
 - ・SDプログラム構築実践（次世代リーダー養成プログラム改善）
- 3日目**
 - ・チームの成果発表&批評Ⅱ（一年目の受講生の批評）
 - ・修了プロジェクト演習
- 第8回 1日目**
 - ・トップリーダー能力分析演習批評（一年目の受講生の批評）
- 2日目**
 - ・修了プロジェクト発表・最終口頭試問
- 3日目**
 - ・修了式

修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

▶受講者の声

- 大学改革や高等教育について知ることができ、プレゼンテーションや文章力など日常では身につかないスキルも身につけることができた。
- ポートフォリオ作成を通じて、今後の自分の方向性を明確にできた。



プログラム番号 I-027

高等教育トップリーダーセミナー

SD

*主な対象

大学、短期大学及び高等専門学校
の学長、校長、理事、副学長、
事務局長、部長クラス

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

外部講師、SPOD内講師

*日時

定期的開催

*場所

未定

*受講定員

未定

*主催

SPOD

*協力校

香川大学

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

愛媛大学総務部人事課
E-mail: jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

目的

高等教育界をリードする大学等のトップリーダー（経営者・管理者）として、大学等の経営管理を担うために必要な情報を収集し、トップリーダーとしての能力を高めることを目的とする。

内容

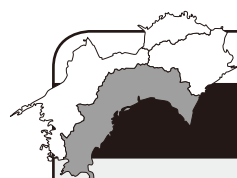
下記のプログラムの中から、希望するプログラムを選択し、受講する。

プログラム

- (1) 教育論・高等教育論
- (2) 高等教育史
- (3) 教育法規
- (4) 高等教育政策・行政
- (5) 高等教育財政
- (6) 経営管理
- (7) 財務管理
- (8) 危機管理
- (9) 教育研究の水準向上
- (10) 地域・諸外国との連携や貢献
- (11) リーダーシップ論
- (12) 学生支援論

※特定非営利活動法人大学職員サポートセンターが行っているプログラムを参考





プログラム番号 Y-011

大学職員のための企画力養成講座

SD

主な対象

職員（採用後2年未満）

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

秦敬治（愛媛大学教育企画室）

日時

9月9日(金)

場所

高知大学総合研究棟2階
会議室1

受講定員

30名

主催

高知大学人事課, SPOD

メ切

開講日2週間前, 先着順

申込先・問合せ

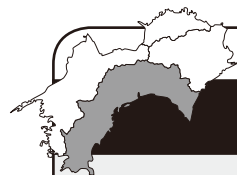
高知大学総務部人事課SD担当
E-mail : y-spod@kochi-u.
ac.jp

目標

職員の職能向上の第一歩として, 大学職員としての「企画力」とはどのようなものであるかを理解し, 企画力を身に付けるためのトレーニングを実際にしてみる。

内容

大学職員としての企画力を身に付けるためのトレーニングを実施するなど, 企画力を身に付ける手法について学習する。



プログラム番号 Y-013

大学職員のための企画力養成講座

SD

主な対象

職員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

秦敬治（愛媛大学教育企画室）

日時

7月22日(金)

場所

高知工科大学

受講定員

50名

主催

高知工科大学, SPOD

メ切

開講日2週間前, 先着順

申込先・問合せ

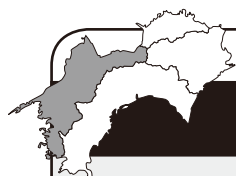
高知工科大学人事部
E-mail : personnel@ml.
kochi-tech.ac.jp

目標

- (1) 問題発見手法を実践することができる
- (2) 多くの情報をグループ化することができる
- (3) 問題解決提案を行うことができる
- (4) 企画を効果的にプレゼンテーションすることができる

内容

大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられている。このプログラムは, 大学改革, 業務改善を行っていく上での, 「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものである。研修のための研修ではなく, このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り, 上司や大学に提案できるよう, 実践に即したスタイルで行う。大学や今の業務に疑問や改善点を持っている職員はもちろん, どうやって見つけたらよいか, 提案したら良いのか分からない職員も遠慮なく参加ください。



プログラム番号 I-036

大学職員のための企画力養成講座

SD

主な対象

職員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

秦敬治（愛媛大学教育企画室）

日時

8月30日(火) 14:00～17:00

場所

聖カタリナ大学 第1会議室

受講定員

50名

主催

聖カタリナ大学、聖カタリナ大学短期大学部、SPOD

メモ切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ先

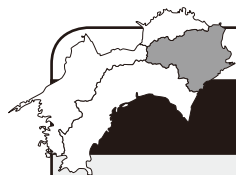
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部学生部教務課
E-mail: kyomuka@catherine.ac.jp

目標

1. 問題発見手法を実践することができる
2. 多くの情報をグループ化することができる
3. 問題解決提案を行うことができる
4. 企画を効果的にプレゼンテーションすることができる

内容

大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられています。このプログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での、「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものです。研修のための研修ではなく、このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実践に即したスタイルで行います。大学や今の業務に疑問や改善点を持たれている職員の方はもちろん、どうやって見つけたらよいか、提案したら良いのか分からない職員の方もどうか遠慮なく参加ください。



プログラム番号 T-008

SDプログラム開発手法

SD

主な対象

職員

対象校

SPOD全加盟校

目標

右記参照

講師

米澤慎二（愛媛大学教育学生支援部教育企画課）

日時

9月中旬 13:30～15:00

場所

四国大学 本館（4階 大会議室）

受講定員

40名

主催

四国大学事務運営懇話会、四国大学総務課、SPOD

メモ切

開講日2週間前、先着順

申込先・問合せ先

四国大学総務部総務課
E-mail: soumu@shikoku-u.ac.jp

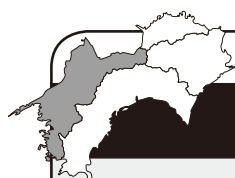
目標

SPODにおけるSDプログラム開発手法を説明できる

内容

1. SDプログラム開発事業の概要について
2. 各大学・短大・高専の事務職員を取り巻く現状・問題点について
 - ①問題点抽出
 - ②問題点をカテゴリー別に分類（ミニグループワーク）
3. 各大学・短大・高専が求める職員像（資質と能力）について
 - ①先に挙げられた問題を解決するために大学職員に必要な能力抽出
 - ②能力をカテゴリー別に分類（ミニグループワーク）
4. グループワークのまとめ・発表
5. 今後のSDプログラムの進め方

▶準備物について 筆記用具



プログラム番号 I-032

講師養成研修

SD

*主な対象

将来 SPOD-SD 講師になる意欲のある職員

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

右記参照

*講師

外部講師，SPOD内講師

*日時

6月上旬 2泊3日

*場所

愛媛大学会議室

*受講定員

30名

*主催

愛媛大学（教職員能力開発拠点），SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ先

愛媛大学総務部人事課
E-mail : jinshoku@stu.
ehime-u.ac.jp

目標

- ・ SPOD-SD 講師としての心構えを持つことができる
- ・ 研修プログラムをデザインすることができる
- ・ 研修技法を述べることができる

内容

- ・ 研修講師の役割と心構え
- ・ 研修プログラムデザイン
- ・ レッスンプラン作成
- ・ インストラクションの技術
- ・ 研修技法
- ・ インストラクション演習



▶受講者の声

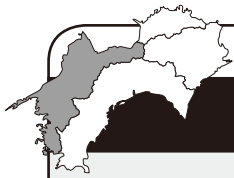
- 講師として人前に立つ際のポイントテクニックがわかった。さらにスキルアップして、講師として活躍できるようになればと思う。
- 一見速効性のない研修という印象を持ったが、実際には社会人、中堅職員として非常に役立つ内容だったと思う。





プレFDプログラム

(大学院生対象)



プログラム番号 I-033

教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ

プレFD

*主な対象

将来、初等・中等教育や高等教育機関等で教える仕事に就きたい大学院生

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

1. 教え方の基本について説明ができるようになる。
2. 大人の学習の動機づけについて説明ができるようになる。
3. 自分の考えや知識を適切に伝えることができるようになる。
4. メンタリングの基本について説明ができるようになる。

*講師

城間祥子、大竹奈津子（愛媛大学教育企画室）
吉田博（徳島大学大学開放実践センター）
山内一祥（佐賀大学高等教育開発センター）

*日時

9月17日（土）～18日（日）

*場所

愛媛大学内

*受講定員

30名

*主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）、SPOD

*その他

要問い合わせ

*申込先・問合せ

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
E-mail: info@iec.ehime-u.ac.jp

内容

1日目

1. オリエンテーション
 - ・研修の目的・目標の確認
 - ・スタッフの紹介とお願い
2. アイスブレイキング
 - ・自己紹介
 - ・グループワーク
3. グループワークⅠ
4. 講義Ⅰ
 - 「学びを促す授業と学びを妨げる授業」
 - 「セミナーの作り方」
 - ・教え方の基本
5. グループワークⅡ
 - 「授業開発Ⅰ」
 - ・目標設定
 - ・授業プラン作成
6. 講義Ⅱ
 - 「成人学習論」
 - ・動機づけ
7. 講義Ⅲ
 - 「メンタリングの基本」
 - ・メンタリングの基礎知識
 - ・メンタリングのコツ
8. グループワークⅢ
 - 「授業開発Ⅱ」
 - ・授業プラン作成
9. グループワークⅣ
 - 「授業開発Ⅲ」
 - ・授業プラン作成
10. グループワークⅤ
 - 「授業開発Ⅳ」
 - ・授業プラン作成

2日目

11. 講義Ⅳ
 - 「効果的なプレゼンテーション方法」
 - ・論理的に話すコツ
 - ・魅せるプレゼンの方法
12. グループワークⅥ
 - 「授業開発Ⅴ」
 - ・授業プラン作成
13. グループ発表
 - 「授業プランのプレゼン」
 - ・授業プラン紹介
 - ・他グループからのコメント
 - ・討議・検討
14. 閉会式・振り返り

※宿泊研修です。

※二日間通しの参加となります。一日だけの参加はできません。

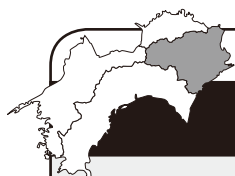
※内容については、参加者の方のニーズにより変更することがあります。

▶参加者の声

- 研究発表の時、授業の時など、私生活でも、フレームを持って人に伝えるべきことを正確に伝える必要があるときに有効な知識やスキルが学べた。
- 教える仕事に関する不安が少し解消され、どう指導すればいいか、考えるのが楽しみになりました。
- 同じ院生同士で、なおかつ分野や大学の異なる方との交流ができたので、貴重だと思うし、本当に楽しく取り組むことができた。
- 授業プランを提出し、その後何度も改善点を指摘していただき、ありがとうございました。その視点で見ることによって、はじめて自分たちが満足できるプラン作りができたと思います。初心者である自分たちを導いてくれて感謝しています。
- 内容が実践的だった。
- サークルの後輩がよく自分のところへ相談に来るのでメンタリングはすぐに実践できると思った。



総合プログラム



プログラム番号 T-007

大学教育カンファレンスin徳島

FD・SD

*主な対象

教職員、学生、一般市民

*対象校

SPOD全加盟校

*目標

特色ある授業実践・授業改善例やFD・SDの実践例を発表し、情報を共有し、教育改善に生かす。

*発表者

教職員、学生

*日時

年度末（1月～3月の間の1日を予定しているが、詳細は未定）

*場所

徳島大学 大学開放実践センター 1階講義室等

*受講定員

特になし

*主催

徳島大学 大学教育委員会・FD専門委員会

*その他

開講日2週間前、先着順

*申込先・問合せ先

徳島大学・大学開放実践センター
E-mail: t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp

内容

- ・特色ある授業実践例や授業改善例の発表と意見交換
- ・FD・SD実践例の発表と意見交換
- ・ワークショップによる模擬授業
- ・ラウンドテーブルによる課題の共有と意見交換
- ・教育・FD・SDに関する特別講演

○開催概要

- ・1年間の教育活動を総括する場で、四国の高等教育機関で行なわれている教育実践の先駆的な取り組みを共有し、大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認することを目的に開催する。
- ・各プログラムでは、各大学・部局における特色ある授業実践例や授業改善例などの報告・討議が行われ、その場で担当者と質疑応答ができ、より詳しい情報収集をすることができる。
- ・発表の形式には、「口頭発表」「ポスター発表」「ワークショップ」および「ラウンドテーブル」がある。2010年度も各学部から発表があり、口頭発表は18件、ポスター発表は13件であった。そのなかで徳島大学外からの発表が2件あった。また、「FDの効果検証について」と題した特別講演、および「徳島県下の大学教育連携に期待するもの及び今後の連携の方向性」のテーマでラウンドテーブルが行われた。このように、1日を通してさまざまな形態のプログラムが実施され、高等教育に関する情報交換が行われる。

○研究発表について（2011年度）

- ・発表者は、常勤・非常勤を問わず、SPOD加盟校の教職員・学生・院生から募集する。
- ・発表内容：全学共通(教養)教育、学部専門教育、大学院教育、公開講座等の授業に関わるもの、また、職員や学生の能力開発に関わるものであること。教育改善・授業改善や、職能開発に関する実践報告にとどまらず、実践成果の評価の分析、および考察を含む発表を歓迎する。

▶準備物

特になし。当日、発表抄録の配布あり。



【研修風景】（特別講演：2010年度大学教育カンファレンスin徳島より）

▶受講者の声

- 講演の内容が非常に具体的でよかった。
- 特別講演がとてもためになった。
- 教育を学問的に考える機会になった。
- 個自分の学んでいる分野以外の研究が多く難しかったが、ポスターの内容などは、面白かった。

プログラム番号 I-034

愛媛大学教育改革シンポジウム

FD*/SD

*** 主な対象**

愛媛大学の教育内容・方法の改善について興味を持っている教職員、学生等

* 対象校

SPOD全加盟校

* 目標

ポスターセッションでの質疑応答や講演の傍聴を通じ、現在、愛媛大学で進めている教育内容・方法の改善に関する取組について理解を深める。

***講師**

愛媛大学教員（愛大GP取組担当者）

* 日時

1月～3月（詳細未定）

***場所**

愛媛大学城北キャンパス

* 受講定員

特になし。入場自由。

***主催**

愛媛大学教育改革諮問委員会

* 大切

要問い合わせ

*** 申込先・問合先**

愛媛大学教育企画課

E-mail : spod@stu.ehime-u.ac.jp

*** 内容 ***

愛媛大学では、平成１８年度から、学内での優れた教育取組に支援を行う「教育改革促進事業」（愛媛大学ＧＰ）を行っており、採択取組の進捗状況と成果について情報発信することを目的に、毎年「教育改革シンポジウム」を開催しています。主に、採択取組のポスターセッションと講演を中心に行っており、特にポスターセッションでは、その場での質疑応答を通じて、取組担当者の生の声をきくことができます。



▶参考：愛媛大学GPとは

愛媛大学における優れた教育改革の取組を取り上げ、教育経費の重点配分を行い、教育の高度化・活性化を図る事業。学士課程及び大学院課程における組織基盤的な教育改革プログラムや組織横断的な教員グループによる創生的な教育開発プロジェクトを学内から公募。事業期間は２年間で、毎年１２件程度の取組を採択。採択された取組の中には、さらに内容を発展させ、文部科学省のＧＰに応募、採択された例もある。

► 參考資料

愛媛大学教育改革促進事業とは？

採択取組からの全学展開の事例1

教育学部 H18年 愛大GP採択
「学生企画型地域連携実習の拡充による
教員養成カリキュラム改革」

H20年 文科省「質の高い大学教育推進プログラム」採択
「教職課程のDPに基づく全学的教員養成改革」

H22年11月
愛媛大学に『教職総合センター』設立
全学部 to 『教職コーディネーター』配置

愛媛大学教育改革促進事業とは？

採択取組からの全学展開の事例2

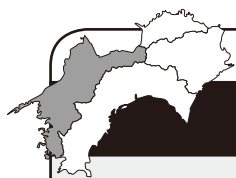
農学部 H19年 愛大GP採択
「『愛媛大学食育士』養成プログラムの創設」

H20年 文科省「質の高い大学教育推進プログラム」採択
「愛媛大学『食育』実践プログラム」

H21年 共通教育初年次科目・発展科目
「こころと健康」(全学必修科目)
「愛媛大学食育士養成講座」

▶受講者の声

- 個の学びから集団での学びを促進することの大切さを学ぶことが出来た。
- 実践に生かせる講義で全てが参考になった。
- 沢山のヒントをいただいた。授業のコントロール法(最初にルールを決める、ディスカッションを止める方法等々)、ポートフォリオでの学生へのコメントの返し方など、すぐに使える方法が実に沢山で書ききれないほど習得できた。



SPOD フォーラム 2011

FD/SD

*主な対象

教育改善に関心のある教職員

*対象校

SPOD全加盟校

*日時

8月23日(火)～26日(金)

*場所

愛媛大学城北キャンパス愛大
ミューズなど

*主催

SPOD

*問い合わせ先

四国地区大学教職員能力開発
ネットワーク事務局(愛媛大学
教育学生支援部教育企画課)
TEL 089-927-9154
E-mail: spod@stu.
ehime-u.ac.jp

SPODフォーラムは…

大学等の教職員が自らの能力開発のために役立つ、多種多様で質の高いFD/SD
プログラム、ならびに組織を超えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供します。

【SPODフォーラムの特徴】

特徴1. 多彩な講師陣

先進的な教育改革で知られる大学のトップリーダー、各大学のFDやSDの
第一線で活躍する教職員やディベロッパー、職場の人材育成・能力開発分野で
活躍するプロフェッショナルなど、多彩かつ魅力的な講師陣をそろえます。

特徴2. 職場で使える実践型プログラム

講師と受講者の間でのインタラクティブなワークショップ形式のプログラム
を数多く開講します。参加者には、意見を出し合い知を共同で作り上げることが
求められると同時に、職場ですぐに使える実践的なノウハウを持ち帰ることが
できます。

特徴3. SDプログラムも多数開講

SPODでは、FD同様にSD(職員の能力開発)に力を入れており、他で
は体験できないプログラムを数多く開講します。

【SPOD フォーラム2011の特徴】

特徴1. 専門分野別、高等専門学校対象プログラムの実施

医療系プログラムや高等専門学校を対象にしたプログラム等、幅広いニーズ
に対応したプログラム構成となっております。

特徴2. ポートフォリオプログラムの充実

ティーチング・ポートフォリオ(TP)及びスタッフ・ポートフォリオ(SP)
プログラムに加え、SPOD フォーラム2011より新たに「ラーニング・ポー
トフォリオ」「TP更新ワークショップ」を実施し、より充実したポートフォリ
オプログラムとなっております。

特徴3. SPOD-SD プログラムの実施

昨年より引き続き、多種多様で実践的なSDプログラムを実施する予定です。
SPOD-SD プログラムに興味のある方は是非ご参加ください。

最新情報は、WEBで随時更新していきますので、ご確認ください
(昨年同様、WEB上のみでの申込みを予定)
<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>





学内向け研修プログラム



学内向け研修プログラム

徳島大学

大学開放実践センター TEL : 088-656-9865 FAX : 088-656-9865
E-mail : t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp 担当者/吉田

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
授業コンサルテーション・授業研究会	「教育力開発基礎プログラム」受講者＋希望者	随時	大学開放実践センター教員が中心となり授業改善のためのコンサルティングを行う。方法としては、授業参観の機会を提供してもらい、ビデオ録画した授業をもとにして、その後授業研究会を行う。学部FD委員会と共催で開催する。
FD・SDセミナー	教職員	奇数月に実施（年4回程度実施予定、詳細は未定）、アフターファイブ等の時間帯を利用して開催	教育方法・授業改善のために利用できる、様々な方法を習得するためのスキルアップと、学生支援や研究支援に必要な能力開発を目指す。日常的なFD・SD活動及び、教職員のスキルアップを目的として、広いテーマの中から実施する。 (案)・アカデミック・ポートフォリオ ・教育賞受賞者による授業の流儀 ・討論を利用した授業 ・学生支援、研究支援の考え方 ・徳島大学でICTを活用した授業を始めるためには ・聴衆応答システム（クリッカー）の実践入門

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

香川大学

教育・学生支援室修学支援グループ TEL : 087-832-1152 FAX : 087-832-1155
E-mail : sokyoyot@jim.ao.kagawa-u.ac.jp 担当者/川畑

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教員研修会	新規採用者（全学教員）	5月中旬	本学の新任教員を対象に、国立大学法人を取り巻く諸情勢と本学の今後の課題及び大学教育等について、理解を深めることを目的とする。
P D 研 修 会	本学教職員	未定	教員と職員の協力連携をテーマに、ワークショップを取り入れた講演を実施し、教職員の連携、FDとSDの重なりや融合を重視し、教職員の意識を更に高めることを目的とする。
全学共通教育の平成24年度実施に向けた研修会	全教員（特に平成24年度全学共通教育担当予定の教員）	12月中旬	学共通科目担当にあたって、第1部では全学共通教育における現状と課題を把握し、現在取り組んでいる事業及び事務的な手続について知る。第2部では、各分科会に分かれ、授業改善に関する具体的な事例紹介と設定したテーマについての意見交換を行い、全学共通教育に関する理解を深める。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

愛媛大学

教育・学生支援機構 教育企画室 TEL : 089-927-8922 FAX : 089-927-8922
E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp 担当者/大竹

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者（教職員）	4月4日、5日	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
放送大学研修	事務系・技術系職員	第1学期：4月上旬～ 第2学期：10月上旬～	放送大学の授業受講を通じて職務遂行に必要な知識を修得させ、その資質の向上を図ることを目的とする。
有期契約職員研修	有期契約職員（事務系）	4月下旬	新たに採用になった有期契約職員（事務系）に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
英語研修	教職員、有期契約職員	前期：5月上旬～ 後期：11月上旬～	職員の英語によるコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。
会計系実務研修	事務系職員（主に会計系以外）	6月下旬	大学改革の推進等により、大学の会計系事務も複雑多岐にわたることから、会計系TL等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に会計系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。

総務系実務研修	事務系職員 (主に総務系以外)	7月中旬	大学改革の推進等により、大学の総務系事務も複雑多岐にわたることから、総務系ＴＬ等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に総務系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
ＩＴ研修	事務系職員、 有期契約職員	8月下旬～ 11月	本学の事務系職員に、情報セキュリティ、応用ソフトウェア関係の研修を実施することにより、パソコン利用に必要な知識・技術を修得させ、事務情報化推進の一助とする。
研究協力・ 社会連携系実務研修	事務系職員 (主に研究協力・社会連携系以外)	9月中旬	大学改革の推進等により、大学の研究協力・社会連携系事務も複雑多岐にわたることから、研究協力・社会連携系ＴＬ等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に研究協力・社会連携系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
学務系実務研修	事務系職員 (主に学務系以外)	12月上旬	大学改革の推進等により、大学の学務系事務も複雑多岐にわたることから、学務系ＴＬ等が講師となり、担当チームの事務分掌等について講義することにより、本学事務系職員に学務系事務の必要な知識を修得させるとともに、事務系職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とし、職員相互の意識及び資質の向上を図る。
愛媛大学ＴＡ・ ＳＡ研修会	ＴＡ・ＳＡを 活用する教員 及び新ＴＡ・ ＳＡ採用予定者	4月7日(木)	ＴＡ・ＳＡの心構えや業務に就く際の注意事項を学び、わかりやすく教える技術を習得することを目的とする
教育コーディネーター研修会	各学部の 教育コーディネーター	年4回程度	教育コーディネーター間での意思疎通を図り、教育改革の方向性について共通認識を持つことを目的としている。研修会テーマは毎回、全学的かつ重要な教育課題となるものを採りあげている。
マネジメント研修	学部長、 学科長等	未定	学部長、学科長クラスを対象としてマネジメントについての研修を実施する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

高知大学 学務部学務課 TEL：088-844-8652・8140 FAX：088-844-8367 E-mail：y-spod@kochi-u.ac.jp 担当者／中山			
研修名	対象者	開催時期	目的・内容
全学新任教職員研修	新規採用者 (教職員)	4月1日(金)	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
法人会計職員研修	会計事務に関 わる職員ほか	8月下旬	国立大学法人会計基準及び高知大学の会計規則等に関する知識を深め、会計事務に係る理解と実務への応用力を身につける。
学務系初任者研修	学務部（学務経験者を除く）に新たに勤務することになった職員	9月	学務をめぐる諸課題と学務部業務全般に関わる基礎的知識を習得させることを目的とする。
学務系実務研修	学務部職員	9月	学務関係の学外研修において得た情報や最新の学務をめぐる情報などの共有を図るとともに、講師となった学務部職員のプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とする。
ＴＡ基礎講習	新ＴＡ採用予定者	9月 3月	業務に対する心構えや基本的な注意事項について学び、授業サポートの充実とＴＡ資質の向上を目的とする。
研究協力部 ＳＤ研修会	研究協力部職員	年度内数回	研究協力部職員の幅広い知識を習得するとともに職員の連携を図ることを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

鳴門教育大学

経営企画本部 人事課 人事労務チーム TEL: 088-687-6265 FAX: 088-687-6072
E-mail: jinji@naruto-u.ac.jp 担当者/林

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新 任 職 員 研 修	新規採用者 (教職員)	4月上旬	新任職員に対し、本学の中期目標・中期計画を基に本学が達成すべき諸課題等について研修を行い、本学の職員として必要な基礎的知識を養うことを目的とする。
放 送 大 学 研 修	事務系職員	第1学期: 4月上旬～ 第2学期: 10月上旬～	長期的な視点から業務への活用効果も考慮に入れた上で、選択した放送大学の授業科目を本学の事務系職員に履修させることにより、職務遂行に必要な幅広い知識を身に付けさせ、職員としての資質の向上を図ることを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

四国大学

TEL: 088-665-9900 FAX: 088-665-8037
E-mail: soumu@shikoku-u.ac.jp

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新規採用教職員研修	新規採用者 (教職員)	4月上旬	本学教職員としての心構え並びに勤務にあたってこれからの教育や職務に対する必要な知識等を習得することを目的とする。
ポ ー ト フ ォ リ オ 研 修 会	全教職員	4月・9月・ 2月	ポートフォリオシステムの更なる周知、徹底を図り、利用促進に繋げることを目的に実施する。
就業力育成セミナー	全教職員	8月	学生への「就業力育成」に関する意識の向上やノウハウを学ぶことを目的に実施する。
パ ソ コ ン 研 修	教職員	8月・9月	情報セキュリティ対策の研修、ワード、エクセル等の練習問題に取り組みながら様々なテクニックを確認し、事務処理能力を向上していくことを目的とする。
大学事務運営懇話会	職員	9月	事務を本務とする職員が自らの研修と情報交換を行うことで、大学職員としての資質向上を図ることを目的とする。
人権啓発問題研修会	教職員	9月中旬	人権尊重の徹底と人権啓発の充実及び人権への意識を高めることを目的とする。
キャリア相談研修会	全教職員	9月・2月	学生のキャリア相談に応じる力量を向上させることを目的に実施する。
ハラスメント研修会	教職員	2月	セクハラ、アカハラ、パワハラについての認識を深めるとともに、修学、教育研究、就労上のすべてのハラスメントの防止及び排除することを目的とする。
教 育 問 題 懇 話 会	教職員	3月	これからの教育諸問題に対する適切な対応や指導の在り方についてお互いに意見交換を行い、解決策を探っていく。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部

教育・研究支援グループ TEL: 088-602-8670 FAX: 088-602-8781
E-mail: kyokeng@tokushima.bunri-u.ac.jp 担当者/新見

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修会	新任教職員	4月8日(金)	新任教職員に対し本学の教職員としての使命と心構えについて自覚させるとともに、服務及び学務について理解させ、業務遂行に必要な基礎知識と能力等を養成することを目的とする。
研 究 授 業	全教員	前期及び後期	授業改善を目的とし、教員相互の授業参観を実施する。
防 災 研 修	全教職員	12月初旬	火災・地震に対応する知識、役割等の研修を通して災害時の対応の仕方を見につけることを目的とする。
セクシャルハラス メント防止研修会	全教職員	2月中旬	セクシャルハラスメント防止の講演会を開催する。
学内人権教育研修会	全教職員	2月中旬	人権教育の視点から、講演会を開催する。
A E D (自動体外式 除細動器) 講習会	全教職員	2月下旬	救急体制強化のための講習会を開催する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

高松大学・高松短期大学

総務部企画課 TEL: 087-841-2164 FAX: 087-841-3064
E-mail: kikaku@takamatsu-u.ac.jp 担当者/高橋

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者 (教職員)	4月1日	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、学園の沿革と教育体制等について理解を深めることを目的とする。
F D 研修会	教員(専任・非常勤講師)	9月中旬、 2月中旬	全教員を対象に、本学における教育の現状と課題について理解を深め、具体的な対策を講じることを目的に、年2回実施する。
研究授業	専任職員	6月、12月	授業の改善のために、各学部、学科で年2回研究授業を実施する。授業後には検討会を行い、互いの授業改善に活かすことを目的とする。
S D 研修会	専任職員	8月初旬、 1月上旬	活気のある事務局づくりを目指し、大学職員としての意識、知識、資質向上を目的に、年2回実施する。
放送大学研修	専任職員	第1学期: 4月上旬～ 第2学期: 10月上旬～	放送大学の科目を履修することで、職員の資質向上及び自己啓発を目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部

学生部教務課 TEL: 089-993-1082 FAX: 089-993-0900
E-mail: kyomuka@catherine.ac.jp 担当者/矢野

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教員研修	新規採用者 (教員)	4月6日	新たに採用になった教員に対して、本学教員としての使命と心構えを自覚させるとともに、本学の建学の精神、教育理念、業務遂行に必要な基礎知識を養成することを目的とする。
F D 研修会	専任教員	3月	高等教育機関として、授業改善、カリキュラム改善、組織整備・改革等、さらなる教育力向上を図ることを目的とする。
事務職員研修会	事務職員	8月 12月 3月	時宜に応じたテーマの選定により、事務職員として必要な知識、情報、技術の習得を図る。また、学外研修において得た知識や情報の報告を行うことにより、その共有化を図るとともに、報告者のプレゼンテーション能力の向上を図る。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

SD委員会 TEL: 089-931-6211 FAX: 089-934-9055
E-mail: tokunaga@shinonome.ac.jp 担当者/徳永

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者 (教職員)	4月1日	新任教職員に対し、本学の建学の精神、学園の沿革および教育体制等について理解を深める。
学園創立記念 教職員研修会	教職員	9月16日	学園創立記念日(9月16日)に、建学の精神の浸透ならびに教育目的達成のために研修会を実施する。
S D 研修会	事務職員	3月	事務職員の能力向上を目的とする。
大学職員のための 企画力養成講座	全職員	8月9日(火) 13:30～ 17:30	目標: 1. 問題発見手法を実践することができる 2. 多くの情報をグループ化することができる 3. 問題解決提案を行うことができる 4. 企画を効果的にプレゼンテーションすることができる 内容: 大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられています。このプログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での、「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものです。研修のための研修ではなく、このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実践に即したスタイルで行います。大学や今の業務に疑問や改善点を持たれている職員の方はもちろん、どうやって見つけたらよいのか、提案したら良いのか分からない職員の方もどうか遠慮なく参加ください。 講師: 秦敬治(愛媛大学教育企画室)

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

徳島工業短期大学

事務局 TEL: 088-672-2311 FAX: 088-672-2162
E-mail: k.tsutsui@tokuko.ac.jp 担当者/筒井

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
F D 研修	専門教育担当 教育職員	未定 (年3回程度)	専門教育内容、教材、指導法等の改善等について協議する。
S D 研修	事務職員	8月	業務の見直しや事務処理の改善等について協議する。
F D / S D 研修	全職員	未定 (年2回程度)	業務の見直しや事務処理の改善等について協議する。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

阿南工業高等専門学校

総務課 TEL: 0884-23-7212 FAX: 0884-22-5424
E-mail: s-hosasoumu@anan-nct.ac.jp 担当者/吉本

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
夏季教員研修会	全教員	8月上旬	年に2回、時機にあったテーマを決めて、講演、分科会、ワークショップ等を実施し、教員の資質向上と円滑な学校運営を図ることを目的とする。
冬季教員研修会	全教員	12月上旬	

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

香川高等専門学校

総務課 TEL: 087-869-3864 FAX: 087-869-3819
E-mail: s_hosa@t.kagawa-nct.ac.jp 担当者/白川

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教員研修	新任教員	4月・6月・10月	本学の新任教員に対して、教員としての心構えを自覚させるとともに、学校運営上必要な基礎知識の修得及び資質の向上を図ることを目的とする。
FD・SD研修会	全教職員	7月26日(火)	香川高専の課題とその対策を討議することにより、全教職員がそれらを共有する機会とすることを目的とする。
ティーチング・ポートフォリオ入門	全教職員	7月頃	目標: 1. ティーチング・ポートフォリオの構造・特徴を理解する 2. ティーチング・ポートフォリオの作成方法を習得する 3. ティーチング・ポートフォリオの個人及び組織における意義、活用の可能性について述べるができる 内容: 1. ティーチング・ポートフォリオとは(含アカデミック・ポートフォリオの概要) ・FDにおける現状の課題: FDの効果、マンネリ化 ・FDにおけるTPの位置づけ: 自らを省察する ・TPの内容: 自己の教育理念を基本とした、教育の責任、目標について、その方法と工夫を明確にしつつ、成果を実際のエビデンスの下に顧み、今後の心新たな目標を策定する。 ※従って、教育理念、責任、教育方法・成果とそのエビデンス、今後の目標等が大きな構成要素である。 2. TPワークショップの概要 ・スタートアップシート ・メンターとメンタリング ・スケジュール 講師: 香川順子、ほか(徳島大学大学開放実践センター)

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

新居浜工業高等専門学校

総務課人事係 TEL: 0897-37-7705 FAX: 0897-37-7842
E-mail: jinji-c@off.niihama-nct.ac.jp 担当者/十亀、藤田

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
講義法の基本	教員	6月10日(金)午後	目的: 自分の授業で応用可能なコツをひとつ以上持ち帰る。 内容: 1. はじめに 2. 構成をしっかりと考える 3. 明確に話す 4. 匿名空間にしない 5. ペア/グループ・ワークを挿入する 6. 発問で刺激を 7. 資料配布・回収やテストを効率的に行う 8. 学習を阻害する行為を管理する 9. まとめ 講師: 葛城浩一(香川大学大学教育開発センター)

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

弓削商船高等専門学校

学生課教務係 TEL: 0897-77-4620 FAX: 0897-77-4693
E-mail: kyoumu@yuge.ac.jp 担当者/衣川、羽藤

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
FDの意義と実践事例	教員	6月16日(木)	「FDの意義」「授業評価アンケート」「初年次教育の進め方と実践事例について」等のFD概論の講義及びFDコンサルティングを行う。 講師: 佐藤浩章(愛媛大学教育企画室)

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

高知工業高等専門学校

総務課 TEL: 088-864-5601 FAX: 088-864-5606
E-mail: watanabe@jm.kochi-ct.ac.jp 担当者/渡邊

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月4日(月)～5日(火)	新たに採用になった教職員に対し、本校教職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。
放送大学研修	教職員	1学期・2学期	放送大学高知地域学習センターの協力のもとに、職務遂行に必要な幅広い知識及び視野、基本的な社会知識を習得させ、教職員の資質の向上を図ることを目的とする。
メンタルヘルス講習会	教職員	12月上旬	ストレス及びメンタルヘルスケアについて正しい理解と対処方法についての知識を高めることを目的とする。

※ここに記載されているプログラムは、他大学の方は参加できませんので、ご了承下さい。なお、詳細については各大学にお問い合わせ下さい。

各種研修プログラムの
お申し込み・お問い合わせ
について

■お申し込み・お問い合わせ先一覧■

徳島大学 〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1-1

徳島大学 大学開放実践センター (担当/吉田)

TEL : 088-656-9865 FAX : 088-656-9865 E-mail : t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp

徳島大学ホームページ <http://www.tokushima-u.ac.jp/>

香川大学 〒760-8521 香川県高松市幸町1-1

香川大学 教育・学生支援室修学支援グループ (担当/川畑)

TEL : 087-832-1152 FAX : 087-832-1155 E-mail : sokyoyot@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

香川大学ホームページ <http://www.kagawa-u.ac.jp/>

愛媛大学 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

【FDプログラム】愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 (担当/大竹)

TEL : 089-927-8922 FAX : 089-927-8922 E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp

【SDプログラム】愛媛大学 総務部人事課 (担当/塩出, 岩谷)

TEL : 089-927-9047 FAX : 089-927-9027 E-mail : jinshoku@stu.ehime-u.ac.jp

愛媛大学ホームページ <http://www.ehime-u.ac.jp/>

高知大学 〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5-1

【FDプログラム】高知大学 学務部学務課 (担当/中山)

TEL : 088-844-8652 FAX : 088-844-8367 E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

【SDプログラム】高知大学 総務部人事課SD担当 (担当/中澤)

TEL : 088-844-8140 FAX : 088-844-8367 E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp

高知大学ホームページ <http://www.kochi-u.ac.jp/JA/>

香川県立保健医療大学 〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281番地1

香川県立保健医療大学 (担当/吉本・間嶋)

TEL : 087-870-1212 FAX : 087-870-1212 E-mail : hokeniryodaigaku@pref.kagawa.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kagawa.lg.jp/daigaku/>

高知県立大学・高知短期大学 〒781-8515 高知県高知市池2751-1

高知県公立大学法人 法人経営室 (担当/黒原, 福島)

TEL : 088-847-8574 FAX : 088-847-8670 E-mail : kurohara@cc.u-kochi.ac.jp

ホームページ <http://www.u-kochi.ac.jp/> fukusima@cc.u-kochi.ac.jp

高知工科大学 〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

高知工科大学人事部 (担当/伊勢, 古谷)

TEL : 0887-53-1112 FAX : 0887-57-2000 E-mail : personnel@ml.kochi-tech.ac.jp

ホームページ <http://www.kochi-tech.ac.jp/>

四国大学・四国大学短期大学部 〒771-1192 徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1

四国大学総務部総務課

TEL : 088-665-9900 FAX : 088-665-8037 E-mail : soumu@shikoku-u.ac.jp

ホームページ <http://www.shikoku-u.ac.jp/>

徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部

〒770-8514 徳島市山城町西浜傍180

徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 教育・研究支援グループ（担当／新見）TEL : 088-602-8670 FAX : 088-602-8781 E-mail : kyokeng@tokushima.bunri-u.ac.jp
ホームページ <http://www.bunri-u.ac.jp/>**高松大学・高松短期大学**

〒761-0194 香川県高松市春日町960番地

高松大学・高松短期大学 総務部企画課（担当／金田）TEL : 087-841-2164 FAX : 087-841-3064 E-mail : kikaku@takamatsu-u.ac.jp
ホームページ <http://www.takamatsu-u.ac.jp>**聖カトリナ大学・聖カトリナ大学短期大学部**

〒799-2496 愛媛県松山市北条660

聖カトリナ大学・聖カトリナ大学短期大学部 学生部教務課（担当／矢野）TEL : 089-993-1082 FAX : 089-993-0900 E-mail : kyoumuka@catherine.ac.jp
ホームページ <http://www.catherine.ac.jp/>**徳島工業短期大学**

〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏蓮花谷100番地

徳島工業短期大学 事務局（担当／筒井）TEL : 088-672-2311 FAX : 088-672-2162 E-mail : k.tsutsui@tokuco.ac.jp
ホームページ <http://www.tokuco.ac.jp>**香川短期大学**

〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地

香川短期大学（担当／日野）TEL : 0877-49-8049 FAX : 0877-49-5252 E-mail : hino@kjc.ac.jp
ホームページ <http://www.kjc.ac.jp/>**今治明德短期大学**

〒794-0073 愛媛県今治市矢田甲688

今治明德短期大学 FD委員会（担当／森）TEL : 0898-22-7279 FAX : 0898-22-7857 E-mail : smori@meitan.ac.jp
ホームページ <http://www.meitan.ac.jp>**高知学園短期大学**

〒780-0955 高知県高知市旭天神町292-26

高知学園短期大学 FD委員会（担当／吾妻）TEL : 0898-22-7279 FAX : 0898-22-7857 E-mail : kyoumu@kochi-gc.ac.jp
ホームページ <http://www.kochi-gc.ac.jp>**阿南工業高等専門学校**

〒774-0017 徳島県阿南市見能林町青木265

阿南工業高等専門学校 総務課（担当／吉本）TEL : 0884-23-7212 FAX : 0884-22-5424 E-mail : s-hosasoumu@anan-nct.ac.jp
ホームページ <http://www01.anan-nct.ac.jp/>**高知工業高等専門学校**

〒783-8508 高知県南国市物部乙200-1

高知工業高等専門学校 総務課課長補佐（総務担当）（担当／渡邊）

TEL : 088-864-5601 FAX : 088-864-5606 E-mail : watanabe@jm.kochi-ct.ac.jp

■お申し込み方法■

下記の内容を開催大学の申し込み先にメールで送付ください。

①氏名

②所属大学

③所属学部，所属部署など

④職種（教員，職員等）

⑤プログラム番号

⑥プログラム名

※遠隔配信プログラムをご希望の場合は，その旨も一緒にお知らせください。

各プログラムには，受講定員があります。そのため，申し込み受付は，先着順とさせていただきます。

SPODは，加盟校の皆様の会費によって運営しています。そのため，原則としてSPOD加盟校以外の教職員の皆様が研修プログラムを受講する場合には，研修料を徴収させていただきます。（研修料については下の表をご参照ください。）

区 分	2時間以下の プログラム	1日で終了する プログラム	1泊2日の プログラム	2泊3日以上 のプログラム	左記に関わらず 外部委託する研 修プログラムの 研修料は，委託 費の総額を受講 定員で除した金 額とする。
研修料	2,000円	3,000円	5,000円	7,000円	

【研修料に関するお問い合わせ先】

SPOD事務局（愛媛大学教育企画課）

TEL：089-927-9154 E-mail：spod@stu.ehime-u.ac.jp

■SPODホームページについて■

SPODホームページでは、研修プログラムやSPODフォーラムの内容を随時更新し公表しています。また、これまでのSPODの取組についても掲載しておりますので、是非、ご参照ください。

The screenshot displays the SPOD homepage with the following elements:

- Header:** SPOD logo and name in Japanese and English. Navigation tabs for TOP, SPODについて, 各種リンク, and サイトマップ. A search bar is also present.
- Left Sidebar:**
 - イベント情報:** A section for event information.
 - SPODについて:** A list of links including 設置目的, 規約, 取組内容, 関連情報, 加盟校一覧, and 研修講師一覧.
 - 研修テキストを見る:** Links for FD (Faculty Development) and SD (Staff Development).
 - 関連資料を見る:** Links for 会議 (Meetings) and 調査・報告 (Surveys and Reports).
 - 各種様式:** A link for various forms.
 - 加盟校専用 (要ID,PW):** A link for member schools.
- Main Content Area:**
 - Top Banner:** A large banner with the text "学生の豊かな学びと成長を支援する 実践的力をもった 高等教育のプロフェッショナルの輩出" and a map of Shikoku. It mentions "ネットワーク加盟校総数 33校 (大学16、短期大学12、高等専門学校5)".
 - University Reform Announcement:** A section titled "大学等における教育改革に関する「事業仕分け第三弾」の結果について(声明)".
 - SPODシンポジウム2010:** A section for the 2010 Symposium, dated November 25, 2010.
 - SPODフォーラム2010:** A section for the 2010 Forum.
 - 4月のイベント情報:** A section for April event information.
 - 更新情報:** A list of recent updates, including:
 - 準備中: SPOD県内会議(高知) update 2011/03/29
 - 準備中: SPOD県内会議(香川) update 2011/03/29
 - 準備中: SPODネットワークコア運営協議会 平成23年度 update 2011/03/29
 - 準備中: SPODフォーラム2011 update 2011/03/29
 - 準備中: SPODフォーラム2010 update 2011/03/29
- Footer:** Contact information for the SPOD Secretariat at Ehime University, including phone, fax, and email. It also includes a copyright notice for 2009.

SPODホームページアドレス <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

研修プログラムガイド 2011

平成23年5月 発行

発 行 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

TEL/FAX 089-927-8922

E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp

ホームページ <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)」は、
加盟校の共同事業として運営しています。

SPOD=Shikoku
Professional and
Organizational
Development Network in Higher Education

